

# 産業技術短期大学校及び峡南高等技術専門校における人材育成プランの方向性

R3.2

1	産業技術短期大学校の状況	
(1)	産業技術短期大学校の概要	P 4
①	設置根拠・経緯	
②	各学科における育成体制・方法等	
③	都留キャンパスにおける工業系高校との連携	
④	定員充足に向けた取り組み	
(2)	これまでの実績	P 11
①	志願者、入学者、定員充足率の状況	
②	卒業者、就職者数（県内外）の状況	
③	求人倍率の状況	
④	3年以内離職率の状況	
(3)	高校生、在校生、企業の評価	P 14
①	ニーズ調査の実施	
②	高校生の評価	
③	在校生の評価	
④	企業の評価	
2	峡南高等技術専門校の状況	
(1)	峡南高等技術専門校の概要	P 21
①	設置根拠・経緯	
②	各学科における育成体制・方法等	
③	定員充足に向けた取り組み	
(2)	これまでの実績	P 24
①	志願者、入学者、定員充足率の状況	
②	卒業者、就職者数（県内外）の状況	
(3)	在校生の評価	P 25
3	外的環境の状況・変化	
(1)	生産年齢人口の動向	P 28
(2)	生徒数の減少状況	
(3)	高校卒業後の進路等の傾向	
(4)	新規高等学校卒業者の求人・求職・就職の状況	P 29
(5)	県内大学の状況	
(6)	外国人留学生・労働者の状況	P 30
(7)	就職氷河期世代への支援状況	P 31
(8)	学生・企業ニーズ等動向	P 32

① 学生ニーズ動向	
② 企業ニーズ動向	
4 主な課題・問題点	
(1) 定員割れの状況 .....	P 39
(2) 学校の認知度の向上	
(3) 訓練内容及び指導体制の充実	
(4) 外国人留学生の受入体制整備	
5 審議会からの主な意見	
(1) 学科・カリキュラム等 .....	P 40
(2) 学校の認知度向上	
6 見直しの方向性	
(1) 時代の要請に対応した人材育成 .....	P 40
① カリキュラムの検討	
② 外国人留学生の受入	
③ 就職氷河期世代の受入	
④ 指導体制・設備の充実	
(2) 学校の認知度の向上 .....	P 42

## 検討の背景

産業技術短期大学校（以下「産短大」とする。）では、「ものづくりとホスピタリティ」の教育理念のもと、平成11年に「生産技術科」、「電子技術科」、「観光ビジネス科」、「情報技術科」の4科を設置して開校し、更に、富士・東部地域の産業界からの要望に応え、平成25年に、「生産技術科」、「電子技術科」の2科を擁する都留キャンパスを開校した。

企業が求める人材を育成するため、企業実習や教育内容の充実等を図っており、令和元年度卒業生に対する求人倍率は1.8倍を超えるなど、産業界からのニーズは非常に高い状況にある。また、開校以来、就職者のうち9割近くが県内企業に就職しており、本県産業の発展に大きく貢献してきた。

平成29年度に職業能力開発審議会から、産短大の在り方について、現在の学科を維持し、引き続き、定員充足に向けた取り組みを強化していく必要があるとの答申をいただき、答申に沿って、本県独自の給付型奨学金制度の創設や、小中学校や高校への出張授業等を行い、学生の確保に努めてきた。

しかしながら、人口減少や少子高齢化の進行、人手不足を背景とした工業系高校生の就職者数の増加等の影響を大きく受け、本年度は、定員充足率が8割を下回る状況となった。

また、峡南高等技術専門校（以下「峡南技専」とする。）の普通課程では、自動車整備科と電気システム科を設置し、就職率はほぼ100%であるが、職業能力開発施設の再編により、電気システム科を移管した平成25年以降、定員充足率が7割前後で推移している状況である。

一方、新型コロナウイルス感染症拡大を契機として、社会のデジタル化の必要性がクローズアップされ、あらゆる分野で情報通信技術の重要性がこれまで以上に増すなど、労働者に求められるスキルも大きく変化している。

こうした中で、産短大や峡南技専において、学生の確保を図るとともに、産業界や学生のニーズの変化に柔軟に対応した人材育成を行っていくために、カリキュラムの再編などを含めて、幅広く検討を行うことが必要になっている。

# 1 産業技術短期大学の状況

## (1) 産業技術短期大学の概要

### ① 設置根拠・沿革等

#### ア 設置根拠

- ・ 職業能力開発促進法第16条第2項に基づく、職業能力開発短期大学校
- ・ 労働者に対し、職業に必要な高度の技能及びこれに関する知識を習得させるための職業訓練で長期間及び短期間の訓練課程を実施（法第15条の7第1項第2号）

#### イ 経緯

平成11年4月	<u>山梨県立産業技術短期大学校開校（現在の塩山キャンパス）</u>
平成22年3月	「県立職業能力開発施設の在り方ビジョン」が策定される。 ・ 専門課程の拡充、普通課程、短期課程の見直し
平成23年10月	「第9次県職業能力開発計画」が策定される。 ・ 県産業技術短期大学校都留キャンパスの新設
平成25年4月	<u>山梨県立産業技術短期大学校都留キャンパス開校</u>
平成27年7月	「産業人材育成検討委員会」設置 ・ 本県に適した産業人材の育成・供給の強化策について、様々な視点から検討 ・ 工業系高校の専攻科設置、産短大の定員充足、大学生の県内就職促進が必要
平成29年3月 (平成29年11月答申)	県職業能力開発審議会に、「産業技術短期大学校の在り方について」諮問 ・ 学科やカリキュラム、定員などを含め、産短大のあり方について検討 ・ 学科構成、定員は現状どおりが妥当 ・ 小中学生への県内企業周知を推進する必要 ・ 経済的不安を抱える高校生等について、他の学生と比べて不利にならない経済的支援が必要 等
平成30年4月	「産業技術短期大学校等就学サポート事業」 開始 ・ 住民税非課税世帯 月額20,000円 支給
令和2年4月	「産業技術短期大学校等就学サポート事業」 支給対象者及び額の拡充 ・ 住民税非課税世帯 月額29,200円 支給、準ずる世帯 月額19,500円、9,800円 「入学金減免制度」 開始 ・ 住民税非課税世帯 全額減免 準ずる世帯 2/3減免、1/3減免

### ② 学科における育成体制・方法等

#### 全学科共通

##### ○全学生がインターンシップを実施

インターンシップを通じて、その業界や企業を知り、将来設計や学んでいることと仕事の関連づけ等を行う機会を提供。

##### ○コミュニケーション能力の醸成

社会人として必要となるコミュニケーション能力を養うため、競技会への参加、授業課題の成果などを発表する機会の創出、グループでコミュニケーション

を取りながら進める必要がある実習等の取り組みを行っている。

## ア 生産技術科

### (体制・方法)

#### ○習熟度別授業の実施

重要科目である数学・物理と一部の実習では学生を習熟度別のグループに分け、それぞれのレベルに合わせた授業を行っている。例として都留キャンパスの機械加工実習では、工作機械の操作経験がある工業高校出身者には技能検定二級レベルの応用的課題から、普通科等出身者は基礎的課題から授業を進めている。

#### ○実習の効率向上

台数に限りのある機械を使用する実習については、学生をグループに分け、それぞれに指導員を配置して別の機械とローテーションで実習することにより、待ち時間を無くし、授業の効率を向上させている。

#### ○資格取得の推奨

技能検定等の資格取得を推奨するとともに、日々の授業の中に検定課題や学科試験対策の要素を導入し、学生の資格取得の支援に取り組んでいる。(都留)

#### ○休日・放課後を利用した学習機会の提供

夏季休暇・放課後等を利用し、技能検定を受検する学生には練習時間を確保するとともに、各教科の習得目標に届かない学生を支援するための指導を行っている。(塩山)

#### ○最新技術の情報収集

最新技術に触れるため、企業見学、技術展・機械見本市等の視察を実施している。

### (内容)

#### ○育成方針

創造・構想したものを設計し、設計したものを部品毎に製作して組み立てる。また、生産ラインを構築して制御する流れを体現するカリキュラムにより、「機械設計」・「精密加工」・「機械制御」の三本柱を身につけた機械エンジニアを育成する。

#### ○企業ニーズ、技術革新を反映したカリキュラム

企業が求める基礎的技術を確実に習得するとともに、時代の変化に対応した先端技術を反映させてカリキュラムを見直している。基盤技術・基礎技術の習得のための指導を確実に行った後に、技術革新により登場した新しい技術を習得するための授業を行うことで、知識・技術のブラックボックス化を防止している。

## イ 電子技術科

### (体制・方法)

#### ○習熟度別授業の実施

習熟度や適性に応じた授業により、一人一人の得意分野を伸ばす取り組みを行っている。既に数学や物理などの理工系科目の基礎を学んできた学生に対しては、大学レベルの授業を行っている。また、理工系科目を学んでいない学生については、基礎的な内容をじっくりと学ぶ内容の授業を行っている。

#### ○最新技術の情報収集

最新の技術に触れるため、企業見学、技術展・機械見本市等の視察を実施している。

#### (内容)

#### ○育成方針

IoT や AI、ロボットと共存する近未来を支える電子工学分野で活躍できるエンジニアを育成するため、最新の電子技術について、基礎から応用までを学ぶ。また、5年、10年先の電子工学の新たなイノベーションにも対応できるよう、電子工学の基礎理論についての授業も行っている。

#### ○企業ニーズ、技術革新を反映したカリキュラム

ものづくり現場での IoT 化やロボット化等に対応するため、これら最新の技術を支えるハードウェアとソフトウェア(プログラミング)の両方について、基礎から応用まで学んでいる。最新の技術分野において注目される超小型 PC「ラズベリーパイ」と、最新のプログラミング言語「パイソン」をいち早く授業に導入している。

### ウ 観光ビジネス科

#### (体制・方法)

#### ○コース分け授業の実施

1年生後期より、いくつかの授業をホスピタリティ・ビジネスコースとツーリズム・ビジネスコースの2つに分けて実施することにより、それぞれの専門性を高めている。

#### a ホスピタリティ・ビジネスコース

ホテル、旅館等の宿泊業に代表されるホスピタリティ産業をターゲットとするコース

- ・1年生後期に1ヶ月程度のホテルでの実習を行っている。
- ・講義やサービスの実習に加え、ワイナリー見学、ぶどう畑での作業体験、ワイン産業発祥の地である勝沼の関連施設の調査等を通じ、ワインについての理解を深める授業を行っている。
- ・ブライダル施設の見学、従事者による講話を通じて、ブライダル産業への理解を深める授業を行っている。

#### b ツーリズム・ビジネスコース

旅行業、観光業等のツーリズム産業をターゲットとするコース

- ・インターンシップの実施

旅行会社での実習に加え、やまなし観光推進機構、山梨県観光文化部での実習を行い、公的セクターの業務、山梨県全体を対象とした観光

客の誘客方法等についても学んでいる。

・国内観光研修の実施

講義や実習で学んだ知識と技術を実践し、観光産業に従事する者としての旅行経験を増やすため、学生が自らテーマを設定し、旅程作成、予約・手配、金銭管理、旅行の実施等の旅行業務に必要な全ての要素を行う授業を実施している。

○フィールドワーク

信玄公祭り、塩の山ワインフェス、天空かぼちゃ祭り等にボランティアスタッフとして参加している。単なるボランティアにとどまらず、学生が企画したイベントの実施、アンケート調査等を行い、主催者側の視点での運営方法の体験、改善点や問題点などの検証を行っている。

○コンテストへの参加

大学生観光まちづくりコンテスト、やまなし「水」ラボプロジェクト等の様々なコンテストに参加し、課題や新しい取り組みの提案、発表などにチャレンジするとともに、他大学との交流の機会ともなっている。

(内容)

○育成方針

ホスピタリティを基本理念に、1年生前期には観光・接客に関する基礎知識を学び、後期からはコースに分かれ、インターンシップ等を通じて各分野の専門的な知識・技術を身につける。併せて広告宣伝技法、プレゼンテーション技法、コンピュータ操作、マーケティング等のビジネススキルを身につけ、観光業界のスペシャリストを育成する。

○観光産業の変化に対応したカリキュラムの見直し

- ・着地型観光への変化に対応し、地域観光資源を活用した観光振興の取り組みについて学ぶ講義と実習を行っている。
- ・インバウンドの増加に対応し、訪日外国人の現状を理解し、外国人旅行者の対応に必要な知識・技術を学ぶ講義と実習を行っている。

## エ 情報技術科

(体制・方法)

○自作教材の活用

学生のレベルに合った実践的な指導を行うため、職員が自作テキストや実習課題を作成して授業を行っている。

○反復学習の実施

実習課題を数多く用意し、繰り返すことで経験値を上げる取り組みを行っている。一度習得した技術を失わせないため、連続性に重点を置いたカリキュラムを構築し、インターバルを置くことなく同種の授業内容が連続することにより、2年間で徐々にレベルアップを図っている。

○休日・放課後を利用した学習機会の提供

多くの学生が、放課後の時間を使って教員の指導を受けながら課題に取り組

んでいる。さらに時間が必要な場合には休日を利用した学習機会を提供している。

#### ○複数企業へのインターンシップ

情報通信系の企業は、1企業2～3名の受け入れのため、1人の学生が複数企業のインターンシップに参加している。

#### (内容)

#### ○育成方針

ソフトウェアの設計、プログラミングを中心に、データベースやネットワーク、マイクロコンピュータ等について幅広く学び、ソフトウェア開発のエンジニアを育成する。

#### ○企業ニーズへの対応

情報技術関連には多くの職種が存在するが、最も企業からの要望が高いソフトウェア開発技術者（プログラマー）の育成に重点を置いている。また、就職先企業との意見交換を積み重ね、企業ニーズの把握に努めている。

### ③ 都留キャンパスにおける工業系高校との連携

#### ア 連携目的

- ・平成24年8月、産短大並びに、都留興譲館高等学校（旧谷村工業高等学校）及び富士北稜高等学校は、高校3年間と産短大2年間の継続的な教育活動を実施し、高度な技術や技能、専門的な知識を併せ持った実践技術者を育成するために関する協定を締結した。

#### イ 連携協定事項

- ・産短大都留キャンパス生産技術科及び電子技術科との一貫型の教育プログラムの充実及び実施に関すること
- ・学力及び技術・技能の維持・向上のための教育活動についての相互協力に関すること
- ・実習等のため必要な機器・施設設備の相互利用に関すること
- ・産短大都留キャンパスへの優先入学に関すること
- ・その他、連携推進のために必要な事業に関すること

#### ウ 産業技術短期大学校と工業系高等学校の連携会議の状況

- ・技術系人材の育成に向け、産短大と工業系高校が連携しながら課題解決を図るため、平成27年度から令和元年度まで10回開催され、本年度も継続して開催している。
- ・都留キャンパスの職業訓練指導員と、都留興譲館高校、富士北稜高校教諭の実務者レベルで協議を行い、連携を深めている。

#### エ 得られた成果

- ・連携高校への出張授業や都留キャンパス設備の貸し出しにより、連携高校生の技能



検定の合格率向上や、産短大生の卒業研究発表会に連携高校生が参加する等、教育活動の相互協力が図られている。

- ・生産技術科では、コース分け授業の実施により、連携高校出身者が普通旋盤や機械検査、マシニングセンター等の技能検定において、より高度な二級の資格を取得しており、高校で習得した技術の更なる向上を図っている。

#### ④ 定員充足に向けた取り組み

学校では、定員充足に向けて様々な取り組みを行っている。

	名称	内容	対象	目的	実施回数 (例年)
1	高校進路指導研究協議会での学校説明	県内の高校進路指導主事が集まる進路指導研究協議会に会場提供するとともに、本校をPR	県立高校進路指導主事	高校進路指導主事へ産短大の理解を深める。	1回
2	高校2学年担当教員向け学校説明会	高校2学年担当教員向けの学校説明会を開催、同時に在校生との交流会を実施	県立高校2学年担当教員	翌年に受験を控える高校2学年の担当教員へ産短大の理解を深める。	1回
3	情報交換会の開催	高校3学年担当教員と情報交換を実施、同時に在学する高校OB・OGの近況を報告	県立高校3学年担当教員	高校3学年担当教員の産短大への理解を深め、高校生へ産短大の存在をPRする。	各高校1回
4	高校訪問（募集要項配布）	校長が高校へ直接訪問し、募集要項の配付と産短大をPR	高校校長	高校との関係を強化し、学生募集につなげる。	各高校1回
5	高校訪問（推薦1次募集の依頼）	高校を訪問し、学校案内や学生募集要項配付、オープンキャンパス、推薦1次募集に係る推薦等の周知	県立高校進路指導主事	高校との関係強化と受験生の確保。	各高校1回
6	高校訪問（推薦2次募集の依頼）	高校を訪問し、推薦2次募集に係る推薦を依頼	〃	受験生の確保	各高校1回
7	高校訪問（一般募集前期の依頼）	高校を訪問し、一般前期入試に係る出願を依頼	〃	受験生の確保	各高校1回
8	高校訪問（一般募集後期の依頼）	高校を訪問し、一般後期入試に係る出願を依頼	〃	受験生の確保	各高校1回
9	高校校長会への参加	高校の校長へ入試について説明	高校校長	受験生の確保、及び高校との関係を強化する。	1回
10	工業系高校との連携協定に基づく連絡会議	優先入学制度の実施 コース分授業等一貫教育プログラムの実施 出前授業等教育活動の相互協力	高校教員 高校生	工業系高校からの受験生の確保	年数回
11	県外高校訪問	県外からの志願を促すため、東京都、神奈川県、長野県、静岡県の県境高校を訪問し、産短大をPR	高校教員	県外高校からの受験生の獲得	1回
12	オープンキャンパスの開催（塩山キャンパス）	産短大の紹介、授業体験、在校生との交流等	高校生 保護者	高校生及び保護者に産短大を知ってもらおう。	4回
13	〃（都留キャンパス）	〃	〃	高校生及び保護者に産短大を知ってもらおう。	2回
14	個別見学会の開催	産短大の紹介、授業見学、施設見学等	高校生 保護者	高校生及び保護者に産短大を知ってもらおう。	10回程度
15	保護者対象の授業見学会	後援会総会(保護者会)開催時に保護者を対象とした授業見学会を実施	在校生保護者	保護者に授業を見学してもらうことで、産短大の授業内容を直接PRし、保護者を通じた学外への口コミによるPR効果をねらう。	1回
16	卒業研究発表会の学外への公開	卒業研究発表会を在校生の保護者、県内企業関係者(教育振興会会員)へ公開	在校生保護者 県内企業関係者	卒業研究の成果を学外に公開し、産短大の教育内容と成果を保護者や県内企業にPRすることで、保護者や企業関係者を通じた学外への口コミによるPR効果をねらう。	1回
17	交流会の開催	教育振興会会員企業、学生保護者、同窓生と産短大の交流会を開催し、産短大の活動内容、学生の成果発表を行う	教育振興会会員企業 学生保護者 卒業生 関係団体 等	産短大の活動内容、学生の学習の成果をPRし、話題を発信することで知名度の向上を図る。	1回
18	高校生ものづくり体験講座「ものづくり技能塾」の開催	1日～2日間のものづくり体験講座を実施	高校生	高校生にものづくりの楽しさを伝え、将来の技術者を育成するとともに、受験生の確保につなげる。	夏4講座 春2講座
19	高校生進路説明会への参加	高校で開催される進路説明会に参加し、産短大の内容を説明する	高校生	高校生に産短大を知ってもらおう。	20回程度
20	高校生の産短大見学受入	高校が行う進学先見学等を受け入れ、産短大の施設、授業内容を紹介する。	高校生	高校生に産短大を知ってもらおう。	6回程度
21	出張授業「ものづくり体験講座」の開催	高校へ職員が出向き、体験講座を行う	高校生	高校生にものづくりの興味を持ってもらうとともに、産短大を知ってもらおう。	8回程度

	名称	内容	対象	目的	実施回数 (例年)
22	入試制度の見直し	入試回数と時期の見直し	受験者	より受験しやすい制度とし、受験生を増加させる。	
23	〃	校長推薦の県内限定要件を削除し、全国の高校からの推薦を可能とした。	〃	より受験しやすい制度とし、受験生を増加させる。	
24	〃	校長推薦の学力試験を廃止し、書類審査と面接審査で選抜。 観光ビジネス科は、自己推薦、一般入試において、英検準2級以上等の者については、希望により学力試験を免除。	〃	より受験しやすい制度とし、受験生を増加させる。	
25	小学校ものづくり体験教室の開催	小学生ものづくりフェスタの開催 生産技術科、電子技術科による4講座を開催	小学生	幼い頃からものづくりに興味を持ってもらうとともに産短大を知ってもらう。	1回
26	〃	つる産業まつりで実施 生産技術科、電子技術科による2講座を開催	〃	郡内地域の学生や市民に産短大を知ってもらうとともに、産短大を知ってもらう。	1回
27	〃	小学生夏休み工作・自由研究教室の開催 生産技術科、電子技術科、観光ビジネス科、情報技術科による4講座を開催	〃	小学生やその保護者等に産短大を知ってもらうとともに、産短大を知ってもらう。	1回
28	〃	学園祭「産技祭」内で開催 生産技術科、電子技術科、観光ビジネス科、情報技術科による4講座を開催	〃	小学生やその保護者等に産短大を知ってもらうとともに、産短大を知ってもらう。	1回
29	出張授業「ものづくり体験講座」の開催	小中学校へ職員が出向き、体験講座を行う	小中学生	幼い頃からものづくりに興味を持ってもらうとともに、産短大を知ってもらう。	15回程度
			小中学校教職員	小中学校教職員のものづくりへの理解を深めるとともに、産短大を知ってもらう。	5回程度
30	広報戦略会議の開催	産短大の職員による広報主任等により、産短大が取り組む各種広報事業について協議	職員	産短大がより効果的な広報活動を行うようにする。	2回
31	新聞広報	山日「キャンパスほっとナビ」	高校生、一般県民	産短大を県民に知ってもらう。 オープンキャンパスに多くの人に来てもらう。	3回
32	〃	山梨新報特集広告「オープンキャンパス広告」	高校生、一般県民	産短大を県民に知ってもらう。 オープンキャンパスに多くの人に来てもらう。	1回
33	〃	読売新聞「オープンキャンパス広告」	高校生、一般県民	産短大を県民に知ってもらう。 オープンキャンパスに多くの人に来てもらう。	4回
34	テレビ出演	YBS「わくドキやまなし」等	高校生、一般県民	産短大を県民に知ってもらう。	随時
35	広報誌掲載	県広報誌「ふれあい」への掲載	高校生、一般県民	産短大を県民に知ってもらう。	随時
36	〃	市町村広報誌への掲載	高校生、一般県民	産短大を県民に知ってもらう。	随時
37	ポスター掲示	ショッピングセンターにポスターを掲示	高校生、一般県民	産短大を県民に知ってもらう。	随時
38	マイナビ進学サイトへの掲載	学校情報やオープンキャンパスの情報等を掲載	高校生、一般県民	高校生やその親に産短大を知ってもらう。	随時
39	学校案内等発行・配布	パンフレット「MY FIELD」、学校案内、クリアファイル、ポスター、手提げ袋の作製	高校生、一般県民	産短大を県民に知ってもらう。	随時
40	ホームページによる情報発信	産短大のイベント、在校生の様子、入試情報等をホームページで発信	高校生、一般県民	産短大を県民に知ってもらう。	随時
41	ツイッターによる情報発信	産短大のイベント、在校生の様子、入試情報等をツイッターで発信	高校生、在校生、一般県民	産短大を県民に知ってもらう。	随時
42	各種イベントのイメージアップ	イベントへのサブタイトルの設定、学科のイメージキャラクターの採用等を実施	高校生、一般県民	産短大のイメージアップやイベントの集客率アップを図る。	随時
43	イベント・コンクールへの参加	各種イベントやコンクールに参加 ・大学生観光まちづくりコンテスト ・地域経済分析システムREASASフォーラム ・ロボコンやまなし ・手作りコマ大戦甲府場所 ・甲州よっちゃばれ大会 ・山梨テクノICTメッセ2017(H15～) ・県技能まつり	高校生、一般県民	コンクール等に入賞することにより、産短大を県民に知ってもらう。	随時
44	大学コンソーシアムつるへの参加	都留市や地元大学等と連携して事業を実施	主に郡内地方の高校生、一般県民	地域へ貢献するとともに、産短大を知ってもらう。	

## (2) これまでの実績

### ① 志願者、入学者、定員充足率の状況

- ・観光ビジネス科及び情報技術科では、充足率が100%を超えているが、生産技術科及び電子技術科では、塩山キャンパス、都留キャンパスともに、定員を満たさない年度が多い状況にある。

年度	塩山												都留						合計 (定員100人→130人) 130人はH25年度から		
	生産技術科 (定員20人)			電子技術科 (定員30人)			観光ビジネス科 (定員20人)			情報技術科 (定員30人)			生産技術科 (定員15人)			電子技術科 (定員15人)			志願者	入学者	充足率
	志願者	入学者	充足率	志願者	入学者	充足率	志願者	入学者	充足率	志願者	入学者	充足率	志願者	入学者	充足率	志願者	入学者	充足率			
H11	17	16	80%	26	23	77%	24	18	90%	57	30	100%							124	87	87%
H12	23	17	85%	26	27	90%	22	21	105%	68	31	103%							139	96	96%
H13	13	16	80%	21	24	80%	18	16	80%	55	31	103%							107	87	87%
H14	20	20	100%	32	26	87%	19	17	85%	48	31	103%							119	94	94%
H15	19	18	90%	24	24	80%	19	18	90%	48	31	103%							110	91	91%
H16	21	17	85%	19	19	63%	26	21	105%	41	32	107%							107	89	89%
H17	21	18	90%	21	23	77%	29	24	120%	36	30	100%							107	95	95%
H18	24	18	90%	21	23	77%	25	22	110%	33	27	90%							103	90	90%
H19	14	13	65%	19	18	60%	24	21	105%	29	27	90%							86	79	79%
H20	11	11	55%	21	22	73%	25	19	95%	41	32	107%							98	84	84%
H21	21	18	90%	29	27	90%	29	22	110%	47	31	103%							126	98	98%
H22	27	22	110%	43	33	110%	41	24	120%	68	35	117%							179	114	114%
H23	27	20	100%	26	24	80%	21	17	85%	54	31	103%							128	92	92%
H24	22	16	80%	27	27	90%	22	18	90%	44	31	103%							115	92	92%
H25	22	19	95%	21	16	53%	28	21	105%	32	26	87%	10	10	67%	15	15	100%	128	107	82%
H26	16	14	70%	19	18	60%	20	18	90%	40	29	97%	8	8	53%	7	7	47%	110	94	72%
H27	17	15	75%	14	9	30%	27	22	110%	38	29	97%	17	15	100%	11	10	67%	124	100	77%
H28	22	20	100%	20	16	53%	29	24	120%	33	27	90%	4	4	27%	9	6	40%	117	97	75%
H29	12	11	55%	12	10	33%	25	23	115%	45	31	103%	17	15	100%	12	10	67%	123	100	77%
H30	20	18	90%	15	16	53%	33	25	125%	47	34	113%	10	10	67%	13	12	80%	138	115	88%
H31	26	18	90%	19	17	57%	35	21	105%	44	32	107%	16	13	87%	12	10	67%	152	111	85%
R2	21	16	80%	21	17	57%	26	21	105%	43	30	100%	10	9	60%	3	3	20%	124	96	74%
合計	436	371	84%	496	459	70%	567	453	103%	991	668	101%	92	84	70%	82	73	61%	2664	2108	87%
平均	20	17	85%	23	21	70%	26	21	105%	45	30	100%	12	11	73%	10	9	60%	118	92	92%
																			127	103	79%

※平均欄の上段はH11～H24、下段はH25以降の平均

## ② 卒業者、就職者数（県内外）の状況

- ・卒業後の進路としては、90%を超える者が就職し、ほぼ100%の就職率を維持しており、就職者に占める県内就職率は88%と高水準となっている。

年度	塩山															都留										合計 (定員100人→130人) 130人はH25年度から																									
	生産技術科 (定員20人)					電子技術科 (定員30人)					観光ビジネス科 (定員20人)					情報技術科 (定員30人)					生産技術科 (定員15人)					電子技術科 (定員15人)																									
	卒業 者	就職 者	県内 就職 者	県外 就職 者	県内 就職 率	卒業 者	就職 者	県内 就職 者	県外 就職 者	県内 就職 率	卒業 者	就職 者	県内 就職 者	県外 就職 者	県内 就職 率	卒業 者	就職 者	県内 就職 者	県外 就職 者	県内 就職 率	卒業 者	就職 者	県内 就職 者	県外 就職 者	県内 就職 率	卒業 者	就職 者	県内 就職 者	県外 就職 者	県内 就職 率	卒業 者	就職 者	県内 就職 者	県外 就職 者	県内 就職 率	卒業 者	就職 者	県内 就職 者	県外 就職 者	県内 就職 率											
H12	10	10	10	0	100%	15	14	12	2	86%	13	11	11	0	100%	24	22	22	0	100%																	62	57	55	2	96%										
H13	15	15	15	0	100%	25	19	18	1	95%	19	16	15	1	94%	29	27	26	1	96%																	88	77	74	3	96%										
H14	14	14	13	1	93%	19	13	10	3	77%	15	14	13	1	93%	25	25	23	2	92%																		73	66	59	7	89%									
H15	17	17	17	0	100%	21	19	19	0	100%	14	13	12	1	92%	26	25	24	1	96%																			78	74	72	2	97%								
H16	14	14	13	1	93%	24	23	23	0	100%	14	12	12	0	100%	26	26	24	2	92%																			78	75	72	3	96%								
H17	18	17	17	0	100%	18	17	16	1	94%	20	19	18	1	95%	28	24	18	6	75%																				84	77	69	8	90%							
H18	16	13	11	2	85%	18	18	18	0	100%	22	22	19	3	86%	28	28	24	4	86%																				84	81	72	9	89%							
H19	14	13	13	0	100%	21	18	17	1	94%	20	20	17	3	85%	24	24	21	3	88%																					79	75	68	7	91%						
H20	11	11	11	0	100%	15	14	14	0	100%	20	19	13	6	68%	26	26	24	2	92%																					72	70	62	8	89%						
H21	10	8	8	0	100%	18	16	15	1	94%	16	16	14	2	88%	28	27	14	13	52%																						72	67	51	16	78%					
H22	16	16	16	0	100%	22	20	20	0	100%	17	17	17	0	100%	26	22	22	0	100%																						81	75	75	0	100%					
H23	20	20	20	0	100%	29	26	25	1	96%	23	20	20	0	100%	34	31	27	4	87%																						106	97	92	5	95%					
H24	22	20	15	5	75%	19	18	15	3	83%	16	15	12	3	80%	32	31	23	8	74%																						89	84	65	19	77%					
H25	14	14	13	1	93%	22	21	19	2	90%	16	15	13	2	87%	27	27	19	8	70%																							79	77	64	13	83%				
H26	19	18	18	0	100%	15	15	14	1	93%	21	21	17	4	81%	24	21	12	9	57%	9	9	9	0	100%	14	12	9	3	75%												102	96	79	17	82%					
H27	12	11	10	1	91%	14	13	11	2	85%	17	15	9	6	60%	24	23	19	4	83%	7	7	7	0	100%	7	7	7	0	100%													81	76	63	13	83%				
H28	14	13	12	1	92%	9	9	8	1	89%	20	18	17	1	94%	28	26	20	6	77%	15	12	11	1	92%	9	7	6	1	86%													95	85	74	11	87%				
H29	18	17	16	1	94%	12	11	11	0	100%	23	23	16	7	70%	24	24	20	4	83%	4	4	4	0	100%	5	4	4	0	100%														86	83	71	12	86%			
H30	13	13	8	5	82%	7	7	7	0	100%	22	21	16	5	78%	26	25	20	5	80%	15	14	13	1	93%	6	5	3	2	60%														89	85	67	18	79%			
R1	16	15	13	2	87%	14	12	10	2	83%	25	21	17	4	81%	26	24	20	4	83%	10	10	9	1	90%	8	8	7	1	88%														99	90	76	14	84%			
合計	303	289	269	20	93%	357	323	302	21	93%	373	348	298	50	86%	535	508	422	86	83%	60	56	53	3	95%	49	43	36	7	84%	1677	1567	1380	18	88%																
平均	15	14	13	2	93%	18	16	15	1	94%	19	17	15	2	88%	27	25	21	4	84%	10	9	9	0	100%	8	7	6	1	86%	84													75	68	7	91%	86	72	14	84%

※平均欄の上段はH12～H25、下段はH26～R1の平均



### (3) 高校生、在校生、企業の評価

#### ①ニーズ調査の実施

産短大への評価や、高校生の進路希望等、企業が今後重要と考えるスキル等を把握・分析するため、次のとおり、高校生・在校生・企業を対象に調査を実施した。

##### ア 高校生への調査

- (ア) 実施主体 山梨県産業労働部産業人材育成課
- (イ) 調査期間 令和2年9月23日～10月9日
- (ウ) 調査対象 県内22校の高校2年生（学科問わず）4,023人  
(主に直近5年間(H28～R2)で産短大への入学者累計が10人以上の高校)
- (エ) 調査方法 無記名電子アンケート形式（一部、紙による回答あり）
- (オ) 有効回答 3,328人（82.7%）
- (カ) 調査内容
  - ・評価関係（P15～）産短大の認知度、希望進路等
  - ・ニーズ関係(P32～)進学先を考える時に重要と考える項目、受けてみたい教育内容等

##### イ 在校生への調査

- (ア) 実施主体 山梨県産業労働部産業技術短期大学校
- (イ) 調査期間 令和2年10月12日～10月16日
- (ウ) 調査対象 全在校生201人
- (エ) 調査方法 無記名アンケート形式
- (オ) 有効回答 200人（99.5%）
- (カ) 調査内容
  - ・評価関係（P18～）進学先として選んだ理由、授業レベル等
  - ・ニーズ関係(P34～)授業で強化すべき内容、学校に期待すること等

##### ウ 企業への調査

- (ア) 実施主体 山梨県産業労働部産業人材育成課（委託調査）
- (イ) 調査期間 令和2年9月23日～10月16日
- (ウ) 調査対象
  - ・産短大生が就職した事業所
  - ・産短大に関連する業種の県内事業所 合計1,700事業所  
次の関連事業所から層化無作為抽出
    - ・生産技術科・電子技術科関連事業所：常用労働者5人以上の「製造業」
    - ・観光ビジネス科関連事業所：常用労働者11人以上の「宿泊業、飲食サービス業、旅行業、鉄道業」
    - ・情報技術科関連事業所：常用労働者5人以上の「情報通信業」
- (エ) 調査方法 郵送配付・回収

(オ) 有効回答 601事業所 (35.4%)

(カ) 調査内容 ・評価関係 (P20～) 産短大生の印象、採用企業からの評価  
 ・ニーズ関係(P36～) 採用する際に重視する項目、今後重要と考えるスキル等

## ② 高校生の評価

### R2.9 実施 県内高校2年生を対象としたアンケート結果より

#### ア 産短大の認知度 (学校別)

・各キャンパスの地元である都留興譲館高校及び塩山高校では、「知らない」との回答が、それぞれ11.0%、26.0%となっているが、全校平均では、68.2%と、認知度が低い状況となっている。

	学科の概要まで概ね知っている	学科名まで概ね知っている	学校名だけ知っている	知らない	総計
都留興譲館高校	3.4%	5.5%	80.0%	11.0%	100.0%
塩山高校	6.5%	7.8%	59.7%	26.0%	100.0%
山梨高校	2.7%	4.5%	47.3%	45.5%	100.0%
笛吹高校	2.9%	3.3%	41.1%	52.7%	100.0%
韮崎工業高校	2.1%	7.5%	34.9%	55.5%	100.0%
北杜高校	0.7%	2.8%	35.7%	60.8%	100.0%
白根高校	0.0%	5.3%	31.6%	63.2%	100.0%
都留高校	1.0%	2.1%	31.3%	65.6%	100.0%
全体平均	1.2%	2.1%	28.5%	68.2%	100.0%
富士北稜高校	0.0%	0.4%	30.3%	69.3%	100.0%
峡南高校	0.0%	3.1%	25.0%	71.9%	100.0%
甲府城西高校	0.8%	1.3%	25.9%	72.0%	100.0%
甲府工業高校	0.4%	1.1%	23.5%	75.0%	100.0%
巨摩高校	0.5%	1.9%	20.4%	77.3%	100.0%
富士河口湖高校	1.9%	1.9%	18.4%	77.7%	100.0%
吉田高校	0.8%	0.8%	20.2%	78.2%	100.0%
上野原高校	1.1%	1.1%	18.5%	79.3%	100.0%
中央高校	1.4%	4.2%	13.9%	80.6%	100.0%
韮崎高校	0.0%	0.9%	17.9%	81.3%	100.0%
甲府昭和高校	0.0%	0.0%	18.2%	81.8%	100.0%
市川高校	0.0%	0.0%	16.4%	83.6%	100.0%
甲府商業高校	1.5%	0.0%	14.6%	83.9%	100.0%
身延高校	0.0%	1.7%	10.2%	88.1%	100.0%

※ 平成29年3月に実施した調査(37校対象)では、「知らない」の全体平均が、73.3%であった。

## イ 希望職業別進学先

・産短大及び峡南技専の学科に関連する業種への就職を希望する者の将来の希望進路先は、「大学へ進学」が39.1%、「就職」が36.1%、「専修・各種専門学校へ進学」が13.4%、「産短大へ進学」が1.5%となっている。

	機械関係	電気関係	電子関係	ソフトウェア・コンピュータ関係	観光・旅行関係	宿泊・飲食関係	自動車整備関係	合計
大学へ進学	142	52	66	136	109	43	16	564
短期大学へ進学	5	2	6	9	5	5	1	33
専修・各種専門学校へ進学	30	12	9	56	31	29	26	193
産業技術短期大学校へ進学	6	1	6	5	3	0	0	21
峡南高等技術専門学校へ進学	2	1	0	0	0	0	7	10
就職	176	115	62	34	13	55	65	520
進路は決まっていない	20	6	13	27	11	9	6	92
その他	3	2	0	0	2	1	0	8
総計	384	191	162	267	174	142	121	1441

	機械関係	電気関係	電子関係	ソフトウェア・コンピュータ関係	観光・旅行関係	宿泊・飲食関係	自動車整備関係	合計
大学へ進学	37.0%	27.2%	40.7%	50.9%	62.6%	30.3%	13.2%	39.1%
短期大学へ進学	1.3%	1.0%	3.7%	3.4%	2.9%	3.5%	0.8%	2.3%
専修・各種専門学校へ進学	7.8%	6.3%	5.6%	21.0%	17.8%	20.4%	21.5%	13.4%
産業技術短期大学校へ進学	1.6%	0.5%	3.7%	1.9%	1.7%	0.0%	0.0%	1.5%
峡南高等技術専門学校へ進学	0.5%	0.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	5.8%	0.7%
就職	45.8%	60.2%	38.3%	12.7%	7.5%	38.7%	53.7%	36.1%
進路は決まっていない	5.2%	3.1%	8.0%	10.1%	6.3%	6.3%	5.0%	6.4%
その他	0.8%	1.0%	0.0%	0.0%	1.1%	0.7%	0.0%	0.6%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

## ウ 産短大が進学先候補となる者の状況

・産短大が進学先候補となる者は175人おり、高校の種別では、「総合学科」が一番多く52人、次に「普通科」及び「工業科」が50人と続いている。

	普通科	農業科	工業科	商業科	総合学科	その他の専門学科	総計
進学先候補となる	50	2	50	18	52	3	175
	28.6%	1.1%	28.6%	10.3%	29.7%	1.7%	100.0%



## エ 産短大への進学を希望しない理由

・将来、産短大に関連する業種への就職を希望する者について、産短大への進学を希望しない理由としては、「自分の適性がわからない」が32.8%で一番多い状況。

次に、「希望する学科がない」が22.9%、「産短大をよく知らないため」が17.3%となっている。

	機械関係	電気関係	電子関係	ソフトウェア・コンピュータ関係	観光・旅行関係	宿泊・飲食関係	自動車整備関係	合計
自分の適性（向き・不向き）がわからない	101	44	16	25	30	25	15	256
希望する学科がない	60	13	9	26	38	20	13	179
4年間学びたい	30	7	4	14	15	2	2	74
他の進学先の方が就職で有利になる	14	3	2	4	4	0	4	31
他の進学先の方が経済的負担が少ない	2	5	0	0	1	0	2	10
他の進学先の方が専門知識・技術を身に付けられる	1	2	1	5	6	0	3	18
授業の内容、習得できる技術、卒業後の就職先などがイメージできない	7	4	1	3	3	3	1	22
立地が良くない（学校所在地：甲州市、都留市）	2	2	1	4	2	2	0	13
授業時間が多く、自由な時間がなさそう	4	0	0	3	1	2	1	11
産業技術短期大学校をよく知らないため	51	15	12	22	19	11	5	135
その他	12	3	0	2	2	1	1	21
回答なし	3	3	0	1	0	2	1	10
総計	287	101	46	109	121	68	48	780

	機械関係	電気関係	電子関係	ソフトウェア・コンピュータ関係	観光・旅行関係	宿泊・飲食関係	自動車整備関係	合計
自分の適性（向き・不向き）がわからない	35.2%	43.6%	34.8%	22.9%	24.8%	36.8%	31.3%	32.8%
希望する学科がない	20.9%	12.9%	19.6%	23.9%	31.4%	29.4%	27.1%	22.9%
4年間学びたい	10.5%	6.9%	8.7%	12.8%	12.4%	2.9%	4.2%	9.5%
他の進学先の方が就職で有利になる	4.9%	3.0%	4.3%	3.7%	3.3%	0.0%	8.3%	4.0%
他の進学先の方が経済的負担が少ない	0.7%	5.0%	0.0%	0.0%	0.8%	0.0%	4.2%	1.3%
他の進学先の方が専門知識・技術を身に付けられる	0.3%	2.0%	2.2%	4.6%	5.0%	0.0%	6.3%	2.3%
授業の内容、習得できる技術、卒業後の就職先などがイメージできない	2.4%	4.0%	2.2%	2.8%	2.5%	4.4%	2.1%	2.8%
立地が良くない（学校所在地：甲州市、都留市）	0.7%	2.0%	2.2%	3.7%	1.7%	2.9%	0.0%	1.7%
授業時間が多く、自由な時間がなさそう	1.4%	0.0%	0.0%	2.8%	0.8%	2.9%	2.1%	1.4%
産業技術短期大学校をよく知らないため	17.8%	14.9%	26.1%	20.2%	15.7%	16.2%	10.4%	17.3%
その他	4.2%	3.0%	0.0%	1.8%	1.7%	1.5%	2.1%	2.7%
回答なし	1.0%	3.0%	0.0%	0.9%	0.0%	2.9%	2.1%	1.3%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

### ③ 在校生の評価

#### R2.10 実施アンケート結果より（産短大 実施）

##### ア 産短大を進学先として選んだ理由（3つまで選択可）

- ・「専門的知識・技術が習得できる」が63.0%、「経費があまりかからない」が49.0%、「就職が有利になる」が26.5%となっている。

学科別で見ると、工業系高校との連携を行っており、授業に資格取得を組み込んでいる都留キャンパスの生産技術科では、「資格が取得ができる」が47.6%と高い割合を示しており、都留キャンパスの特徴が反映された結果となっている。

	塩山キャンパス					都留キャンパス			総計
	生産技術科	電子技術科	観光ビジネス科	情報ビジネス科	塩山計	生産技術科	電子技術科	都留計	
1 専門的知識・技術が習得できる	63.6%	63.6%	47.6%	71.9%	62.4%	61.9%	71.4%	65.7%	63.0%
2 資格が取得できる	24.2%	15.2%	16.7%	10.5%	15.8%	47.6%	21.4%	37.1%	19.5%
3 自分の適正や関心にあった科目がある	15.2%	24.2%	28.6%	15.8%	20.6%	14.3%	14.3%	14.3%	19.5%
4 自宅から通える	18.2%	12.1%	28.6%	15.8%	18.8%	42.9%	50.0%	45.7%	23.5%
5 経費があまりかからない	42.4%	45.5%	47.6%	66.7%	52.7%	38.1%	21.4%	31.4%	49.0%
6 指導体制が充実している	3.0%	3.0%	4.8%	8.8%	5.5%	0.0%	0.0%	0.0%	4.5%
7 施設・設備が整っている	9.1%	6.1%	4.8%	8.8%	7.3%	14.3%	0.0%	8.6%	7.5%
8 就職が有利になる	33.3%	33.3%	23.8%	21.1%	26.7%	23.8%	28.6%	25.7%	26.5%
9 推薦入学できる	6.1%	9.1%	4.8%	7.0%	6.7%	4.8%	14.3%	8.6%	7.0%
10 学校の雰囲気明るくて良い	0.0%	0.0%	0.0%	1.8%	0.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.5%
11 進路指導員の勧め	9.1%	6.1%	11.9%	5.3%	7.9%	0.0%	7.1%	2.9%	7.0%
12 家族の勧め	9.1%	18.2%	7.1%	5.3%	9.1%	0.0%	14.3%	5.7%	8.5%
13 社会人としての常識が身につけられる	0.0%	0.0%	7.1%	1.8%	2.4%	0.0%	0.0%	0.0%	2.0%
14 その他	6.1%	0.0%	0.0%	0.0%	1.2%	0.0%	0.0%	0.0%	1.0%

##### イ 産短大に進学してみた感想

- ・「満足している」が27.0%、「まあまあ満足している」が56.0%となっており、産短大の学校生活に概ね満足している。学科別に見ると、塩山キャンパスの電子技術科において、「少し不満」があるとの回答が多い状況となっている。

	塩山キャンパス					都留キャンパス			総計
	生産技術科	電子技術科	観光ビジネス科	情報技術科	塩山計	生産技術科	電子技術科	都留計	
1 満足している	21.2%	21.2%	31.0%	28.1%	26.1%	38.1%	21.4%	31.4%	27.0%
2 まあまあ満足している	69.7%	54.5%	45.2%	54.4%	55.2%	52.4%	71.4%	60.0%	56.0%
3 少し不満がある	6.1%	24.2%	16.7%	10.5%	13.9%	4.8%	0.0%	2.9%	12.0%
4 不満がある	3.0%	0.0%	0.0%	3.5%	1.8%	4.8%	0.0%	2.9%	2.0%
5 その他	0.0%	0.0%	2.4%	3.5%	1.8%	0.0%	7.1%	2.9%	2.0%
6 無回答	0.0%	0.0%	4.8%	0.0%	1.2%	0.0%	0.0%	0.0%	1.0%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

##### ウ 産短大の授業・実習レベル

- ・「ちょうどよい」が55.0%、「やや高い」が26.5%、「高い」が12.5%となっている。学科別に見ると、情報技術科において、レベルが高いと感じている学生が多い状況となっている。

	塩山キャンパス					都留キャンパス			総計
	生産技術科	電子技術科	観光ビジネス科	情報技術科	塩山計	生産技術科	電子技術科	都留計	
1 高い	9.1%	12.1%	11.9%	19.3%	13.9%	9.5%	0.0%	5.7%	12.5%
2 やや高い	12.1%	39.4%	16.7%	40.4%	28.5%	14.3%	21.4%	17.1%	26.5%
3 ちょうどよい	72.7%	39.4%	61.9%	36.8%	50.9%	71.4%	78.6%	74.3%	55.0%
4 やや低い	6.1%	6.1%	7.1%	3.5%	5.5%	0.0%	0.0%	0.0%	4.5%
5 低い	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	4.8%	0.0%	2.9%	0.5%
6 無回答	0.0%	3.0%	2.4%	0.0%	1.2%	0.0%	0.0%	0.0%	1.0%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

## エ 産短大の授業・実習内容

・「普通」が41.5%、「まあまあ満足している」が27.5%、「満足している」が22.5%となっており、授業内容に不満を持っている生徒は、約8%と少数となっている。学科別に見ると、情報技術科において、「満足している」と「やや不満」が他学科と比較して、多い状況となっている。

	塩山キャンパス					都留キャンパス			総計
	生産技術科	電子技術科	観光ビジネス科	情報技術科	塩山計	生産技術科	電子技術科	都留計	
1 満足している	24.2%	12.1%	19.0%	29.8%	22.4%	28.6%	14.3%	22.9%	22.5%
2 まあまあ満足している	15.2%	33.3%	23.8%	26.3%	24.8%	42.9%	35.7%	40.0%	27.5%
3 普通	57.6%	45.5%	50.0%	28.1%	43.0%	23.8%	50.0%	34.3%	41.5%
4 やや不満	3.0%	6.1%	4.8%	15.8%	8.5%	0.0%	0.0%	0.0%	7.0%
5 不満	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	4.8%	0.0%	2.9%	0.5%
6 無回答	0.0%	3.0%	2.4%	0.0%	1.2%	0.0%	0.0%	0.0%	1.0%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

## オ 在学中に取得を目指せる資格数

・「ちょうどよい」が64.5%、「やや少ない」が17.5%、「やや多い」が9.0%となっている。塩山キャンパスの各学科において、少ないと感じている学生が多い状況となっている。

	塩山キャンパス					都留キャンパス			総計
	生産技術科	電子技術科	観光ビジネス科	情報技術科	塩山計	生産技術科	電子技術科	都留計	
1 多い	0.0%	6.1%	4.8%	5.3%	4.2%	14.3%	0.0%	8.6%	5.0%
2 やや多い	9.1%	3.0%	7.1%	7.0%	6.7%	28.6%	7.1%	20.0%	9.0%
3 ちょうどよい	72.7%	54.5%	64.3%	66.7%	64.8%	42.9%	92.9%	62.9%	64.5%
4 やや少ない	18.2%	21.2%	21.4%	19.3%	20.0%	9.5%	0.0%	5.7%	17.5%
5 少ない	0.0%	12.1%	0.0%	1.8%	3.0%	4.8%	0.0%	2.9%	3.0%
6 無回答	0.0%	3.0%	2.4%	0.0%	1.2%	0.0%	0.0%	0.0%	1.0%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

## カ 学校設備・実習機器

・「普通」が33.0%、「満足」が31.0%、「やや満足」が24.5%となっており、設備・機器については、不満を持っている学生は少数な状況となっている。

	塩山キャンパス					都留キャンパス			総計
	生産技術科	電子技術科	観光ビジネス科	情報技術科	塩山計	生産技術科	電子技術科	都留計	
1 満足	30.3%	24.2%	21.4%	33.3%	27.9%	38.1%	57.1%	45.7%	31.0%
2 やや満足	24.2%	33.3%	11.9%	29.8%	24.8%	28.6%	14.3%	22.9%	24.5%
3 普通	39.4%	27.3%	50.0%	24.6%	34.5%	23.8%	28.6%	25.7%	33.0%
4 やや不満	6.1%	9.1%	9.5%	8.8%	8.5%	0.0%	0.0%	0.0%	7.0%
5 不満	0.0%	0.0%	2.4%	1.8%	1.2%	4.8%	0.0%	2.9%	1.5%
6 無回答	0.0%	6.1%	4.8%	1.8%	3.0%	4.8%	0.0%	2.9%	3.0%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

## キ 経済的負担に関するサポート体制

・「充実」が46.0%、「普通」が34.0%、「やや充実」が17.0%となっており、不十分と感じている学生は少数な状況となっている。

	塩山キャンパス					都留キャンパス			総計
	生産技術科	電子技術科	観光ビジネス科	情報技術科	塩山計	生産技術科	電子技術科	都留計	
1 充実	39.4%	36.4%	40.5%	56.1%	44.8%	42.9%	64.3%	51.4%	46.0%
2 やや充実	18.2%	21.2%	11.9%	15.8%	16.4%	28.6%	7.1%	20.0%	17.0%
3 普通	39.4%	39.4%	45.2%	24.6%	35.8%	23.8%	28.6%	25.7%	34.0%
4 やや不十分	3.0%	0.0%	0.0%	3.5%	1.8%	0.0%	0.0%	0.0%	1.5%
5 不十分	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	4.8%	0.0%	2.9%	0.5%
6 無回答	0.0%	3.0%	2.4%	0.0%	1.2%	0.0%	0.0%	0.0%	1.0%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

#### ④ 企業の評価

##### R2.9 実施 県内企業を対象としたニーズ調査結果より（産業人材育成課 実施）

###### ア 産短大生の印象

- ・「優秀」が18.6%、「やや優秀」が29.8%となっており、50%弱の企業から高評価を得ている。

優秀	やや優秀	どちらでもない	あまり優秀でない	優秀でない	無回答	回答数
80	128	199	4	0	18	429
18.6%	29.8%	46.4%	0.9%	0.0%	4.2%	100%

###### イ 人材ニーズへの対応状況（産短大生を採用した企業からの回答状況）

- ・どの項目も、概ね期待通り以上の評価を得ている。
- ・特に、「専門分野への興味・問題意識」、「協調性」、「新しい知識・技術の吸収力」において、期待通り以上の割合が高く、産短大の理論と実験・実習のバランスがとれた教育特色が評価に現れている。

	回答数	期待以上	やや期待以上	期待通り	やや期待以下	期待以下	業務上必要ない	無回答	(再掲)期待通り以上
専門分野への興味・問題意識	157	4	41	79	21	5	1	6	124
	100%	2.5%	26.1%	50.3%	13.4%	3.2%	0.6%	3.8%	79.0%
協調性	157	10	29	85	21	7	0	5	124
	100%	6.4%	18.5%	54.1%	13.4%	4.5%	0.0%	3.2%	79.0%
新しい知識・技術の吸収力	157	4	33	86	28	1	0	5	123
	100%	2.5%	21.0%	54.8%	17.8%	0.6%	0.0%	3.2%	78.3%
専門分野に関する基礎学力	157	4	29	87	30	0	1	6	120
	100%	2.5%	18.5%	55.4%	19.1%	0.0%	0.6%	3.8%	76.4%
積極性	157	10	17	90	26	8	0	6	117
	100%	6.4%	10.8%	57.3%	16.6%	5.1%	0.0%	3.8%	74.5%
社会常識・マナー	157	7	18	90	27	9	0	6	115
	100%	4.5%	11.5%	57.3%	17.2%	5.7%	0.0%	3.8%	73.2%
情報収集能力	157	2	15	94	31	5	3	7	111
	100%	1.3%	9.6%	59.9%	19.7%	3.2%	1.9%	4.5%	70.7%
課題発見・解決力	157	2	21	87	33	7	0	7	110
	100%	1.3%	13.4%	55.4%	21.0%	4.5%	0.0%	4.5%	70.1%
コミュニケーション力・交渉力	157	6	21	82	36	7	0	5	109
	100%	3.8%	13.4%	52.2%	22.9%	4.5%	0.0%	3.2%	69.4%
論理的思考	157	0	17	86	39	6	3	6	103
	100%	0.0%	10.8%	54.8%	24.8%	3.8%	1.9%	3.8%	65.6%
計画立案能力	157	0	8	92	42	4	3	8	100
	100%	0.0%	5.1%	58.6%	26.8%	2.5%	1.9%	5.1%	63.7%
新しい価値を生み出す想像力	157	0	10	88	38	10	4	7	98
	100%	0.0%	6.4%	56.1%	24.2%	6.4%	2.5%	4.5%	62.4%
文書（報告書）作成能力	157	0	8	88	43	2	9	7	96
	100%	0.0%	5.1%	56.1%	27.4%	1.3%	5.7%	4.5%	61.1%
プレゼンテーション能力	157	0	11	77	43	9	10	7	88
	100%	0.0%	7.0%	49.0%	27.4%	5.7%	6.4%	4.5%	56.1%

## 2 峡南高等技術専門校の状況

### (1) 峡南高等技術専門校の概要

#### ① 設置根拠・経緯

##### ア 設置根拠

- ・ 職業能力開発促進法第16条第1項に基づく、職業能力開発校
- ・ 労働者に対し、職業に必要な技能及びこれに関する知識を習得させるための職業訓練で長期間及び短期間の訓練課程を実施（法第15条の7第1項第1号）

##### イ 経緯

平成11年4月	「山梨県立峡南高等技術専門校」と改称
平成25年4月	職業能力開発施設の再編により、電気システム科を都留高等技術専門校から移管
平成26年8月	本館全面改築（新築）
平成29年4月	自動車整備科の定員を 20人 → 25人へ拡充

#### ② 各学科における育成体制・方法等

##### ア 自動車整備科

二級自動車整備士の受験資格が取得できる課程として、県内では唯一国から養成施設の指定を受けている。

##### （訓練目標）

##### ○訓練生自らできる作業

- ・ 自動車の整備（点検、分解、組立、調整並びに修理）作業ができる。
- ・ 整備に必要な工具・機械の取扱いができる。

##### ○指導員の指示によりできる作業

- ・ 自動車の定期点検作業ができる。
- ・ 自動車の故障原因の探求ができる。

##### （体制・方法）

- ・ 訓練生の理解度に合わせて、きめ細かい指導を行っている。
- ・ 実習については、訓練生を3名程度の少人数グループに分けて実施している。

##### （訓練内容の充実）

ハイブリッド車、電気自動車、安全運転サポート車など日々進化する自動車技術の高度化に対応するため、自動車メーカーから講師を招聘して訓練を実施している。

##### イ 電気システム科

第二種電気工事士資格が取得できる課程として、県内では唯一国から養成施設の指定を受けている。

##### （訓練目標）

○訓練生自らできる作業

- ・一般住宅、中規模工場・ビル等の屋内配線工事及び検査ができる。
- ・各種電気機器の簡単な修理及び高圧受変電設備等の配線工事・検査及び測定試験ができる。

○指導員の指示によりできる作業

- ・電気回路の組立及び試験ができる。
- ・制御機器配線作業ができる。

(体制・方法)

- ・訓練生の理解度に合わせて、きめ細かい指導を行っている。

(訓練内容の充実)

ホーム・エネルギー・マネジメント・システム (HEMS (ヘムス)) 等の電気の最新技術については、メーカーから講師を招聘して実施している。

今年度から第一種電気工事士試験を見据えたカリキュラムの見直しを図っている。

### ③ 定員充足に向けた取り組み

学校では、定員充足に向けて様々な取り組みを行っている。

名称	内容	対象	目的	実施回数
1 情報交換会の開催	高校3学年担当教員と情報交換を実施	県立高校3学年担当教員	産短大と共に、高校3学年担当教員の峡南技専への理解を深め、高校生へ峡南技専の存在をPRする。	各高校1回
2 高校訪問（学校案内配布）	校長が高校へ直接訪問し、学校案内の配付と峡南技専をPR	高校校長	高校との関係を強化し、学生募集につなげる。	主要高校1回
3 高校訪問（募集要項配布）	高校を訪問し、学校案内や学生募集要項配付、オープンキャンパス、募集要項等の周知募集関係の担当職員を決め、ワンストップのサービスを提供	県立高校進路指導主事	高校との関係強化と受験生の確保。	各高校1回
4 高校訪問（一般及び推薦前期の依頼）	高校を訪問し、一般及び推薦前期入試に係る出願を依頼	〃	受験生の確保	主要高校1回
5 高校訪問（推薦後期募集の依頼）	高校を訪問し、推薦後期募集に係る推薦を依頼	〃	受験生の確保	主要高校1回
6 高校訪問（一般後期募集の依頼）	高校を訪問し、一般後期入試に係る出願を依頼	〃	受験生の確保	主要高校1回
7 在校生による出身高校訪問	峡南技専在校生が出身高校へ出向き、就職内定先と近況を高校時代の担任、部活動の顧問等に報告	高校教員	高校教員及び高校の後輩へ峡南技専の理解を深める。	1回
8 オープンキャンパスの開催	峡南技専の紹介、授業体験、在校生との交流等	高校生保護者	高校生及び保護者に峡南技専を知ってもらおう。	5回
9 高校生ものづくり体験講座の開催	半日程度のものづくり体験講座を実施	高校生	高校生に峡南技専の訓練内容や魅力を伝え、受験生の確保につなげる。	4講座
10 高校生進路説明会への参加	高校で開催される進路説明会に参加し、峡南技専の内容を説明する	高校生	高校生に峡南技専を知ってもらおう。	20回程度
11 高校生の峡南技専見学受入	高校が行う進学先見学等を受け入れ、峡南技専の施設、授業内容を紹介する。	高校生	高校生に峡南技専を知ってもらおう。	1回程度
12 入試制度の見直し	入試回数と時期の見直し（一般前期の入試時期を11月→10月、自整科に一般後期を追加）	受験者	より受験しやすい制度とし、受験生を増加させる。	
13 小中学生ものづくり体験教室の開催	学園祭「峡技祭」内で開催 自動車整備科、電気システム科、造園科、服飾科による4講座を開催	小学生等	小中学生やその保護者等に峡南技専を知ってもらおうとともに、産短大を知ってもらおう。	1回
14 広報戦略会議の開催	関係職員により、峡南技専が取り組む各種広報事業について協議	職員	峡南技専がより効果的な広報活動を行うようにする。	2回
15 広報誌掲載	市町村広報誌への掲載	高校生、一般県民	峡南技専を県民に知ってもらおう。	
16 学校案内等発行・配布	パンフレット、学校案内、クリアファイル、ポスターの作製・配付	高校生、一般県民	峡南技専を県民に知ってもらおう。	
17 ホームページによる情報発信	峡南技専のイベント、在校生の様子、入試情報等をホームページで発信	高校生、一般県民	峡南技専を県民に知ってもらおう。	随時
18 Facebookによる情報発信	峡南技専の日々の訓練風景などを情報発信	高校生、一般県民	峡南技専を県民に知ってもらおう。	随時
19 ハローワーク(HW)への広報依頼	HWを訪問し、訓練内容の説明や学校案内等の配付を依頼	求職者	HWを訪れる求職者等に知ってもらおう。	2回
20 イベント・コンクールへの参加	各種イベントやコンクールに参加 ・くるま祭り ・山梨県自動車整備技能競技大会 ・コーヒーブレイクミーティング ・県技能まつり など	高校生、一般県民	競技大会に入賞することや、作品展示をとおして、峡南技専を県民に知ってもらおう。	
21 魅力ある訓練の実施①	・富士チャンピオンレースへの参戦	高校生、一般県民	レースに入賞することや、製作した車両をとおして、峡南技専の訓練内容を県民に知ってもらおう。	2回
22 魅力ある訓練の実施②	・各企業（自動車メーカー系ディーラー等）とタイアップした先端技術講習会の開催	高校生、一般県民	各自動車メーカー系ディーラーと協力し、講習会を開催することにより、最先端技術習得のPRを行うと共に、ディーラーのHP等で当校のPRを行ってもらい、峡南技専を県民に知ってもらおう。	
23 魅力ある訓練の実施③	・資格取得をとおした技能の習得	高校生、一般県民	各種国家資格等の取得率を向上させ、峡南技専で就職に役立つ資格が取得できることを県民に知ってもらおう。	

## (2) これまでの実績

### ① 志願者、入学者、定員充足率の状況

・定員充足率平均は、自動車整備科では94%と高水準であるが、電気システム科では、43%と低い状況である。

年度	峡南高等技術専門学校(普通課程)						合計 (定員40→45人)		
	自動車整備科 (定員20→25人)			電気システム科 (定員20人)			志願者	入学者	充足率
	志願者	入学者	充足率	志願者	入学者	充足率			
H25	32	20	100%	9	8	40%	41	28	70%
H26	37	20	100%	11	11	55%	48	31	78%
H27	49	19	95%	9	8	40%	58	27	68%
H28	37	20	100%	15	15	75%	52	35	88%
H29 定員増	36	25	100%	11	10	50%	47	35	78%
H30	23	18	72%	5	5	25%	28	23	51%
H31	26	24	96%	5	5	25%	31	29	64%
R2	31	23	92%	6	6	30%	37	29	64%
合計	271	169	94%	71	68	43%	342	237	70%
平均	39	20	99%	9	9	43%	50	30	76%
	29	23	90%				36	29	64%

※平均欄の上段はH25～H28、下段はH29以降の平均

### ② 卒業者、就職者数（県内外）の状況

・自動車整備科、電気システム科ともに、ほとんど全員が県内企業に就職しており、就職率は、ほぼ100%の状況である。

卒業年度	峡南高等技術専門学校(普通課程)										合計 (定員40→45人)				
	自動車整備科 (定員20→25人)					電気システム科 (定員20人)					修了者	就職者	県内就職者	県外就職者	県内就職率
	修了者	就職者	県内就職者	県外就職者	県内就職率	修了者	就職者	県内就職者	県外就職者	県内就職率					
H25	16	16	16	0	100%	8	8	8	0	100%	24	24	24	0	100%
H26	19	19	18	1	95%	9	9	9	0	100%	28	28	27	1	96%
H27	20	20	20	0	100%	7	7	7	0	100%	27	27	27	0	100%
H28	19	19	19	0	100%	13	13	12	1	92%	32	32	31	1	97%
H29	20	20	20	0	100%	9	8	8	0	100%	29	28	28	0	100%
H30 定員増	23	23	22	1	96%	5	5	5	0	100%	28	28	27	1	96%
H31	17	17	17	0	100%	4	4	4	0	100%	21	21	21	0	100%
合計	134	134	132	2	99%	55	54	53	1	98%	189	188	185	3	99%
平均	19	19	19	0	99%	8	8	8	0	99%	28	28	27	0	99%
	20	20	20	1	98%						25	25	24	1	98%

※平均欄の上段はH25～H29、下段はH30以降の平均



### (3) 在校生の評価

- ・実施主体 山梨県産業労働部峡南高等技術専門校
- ・調査期間 令和2年11月9日～11月10日
- ・踏査対象 全在校生47人
- ・調査方法 無記名アンケート形式
- ・有効回答 47人(100%)

※結果の一部については、「3(8) 学生・企業ニーズ等動向」でも使用

#### ア 峡南技専を進学先として選んだ理由(3つまで選択可)

- ・「資格が取得できる」が74.5%、「専門的知識・技術が習得できる」が68.1%、「経費があまりかからない」が46.8%となっている。

学科別で見ると、卒業時に第二種電気工事士の資格取得ができる電気システム科では、「資格が取得できる」が100%となっている。

	自動車整備科			電気システム科	総計
	1年	2年	計		
1 専門的知識・技術が習得できる	85.0%	54.5%	69.0%	60.0%	68.1%
2 資格が取得できる	75.0%	68.2%	71.4%	100.0%	74.5%
3 自分の適正や関心にあった科目がある	15.0%	13.6%	14.3%	0.0%	12.8%
4 自宅から通える	30.0%	36.4%	33.3%	0.0%	29.8%
5 経費があまりかからない	50.0%	45.5%	47.6%	40.0%	46.8%
6 指導体制が充実している	5.0%	0.0%	2.4%	20.0%	4.3%
7 施設・設備が整っている	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
8 就職が有利になる	15.0%	27.3%	21.4%	20.0%	21.3%
9 推薦入学できる	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%	2.1%
10 学校の雰囲気が明るくて良い	0.0%	4.5%	2.4%	0.0%	2.1%
11 進路指導員の勧め	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
12 家族の勧め	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
13 社会人としての常識が身につけられる	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
14 その他	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

#### イ 峡南技専に進学してみた感想

- ・「満足している」が46.8%、「まあまあ満足している」が44.7%となっており、峡南技専の学校生活に概ね満足している。

	自動車整備科			電気システム科	総計
	1年	2年	計		
1 満足している	25.0%	63.6%	45.2%	60.0%	46.8%
2 まあまあ満足している	60.0%	31.8%	45.2%	40.0%	44.7%
3 少し不満がある	10.0%	0.0%	4.8%	0.0%	4.3%
4 不満がある	5.0%	0.0%	2.4%	0.0%	2.1%
5 その他	0.0%	4.5%	2.4%	0.0%	2.1%
6 無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

### ウ 峡南技専の授業・実習レベル

・「ちょうどよい」が51.1%、「やや高い」が31.9%、「高い」が10.6%となっている。学科別に見ると、自動車整備科において、レベルが高いと感じている学生が多い状況となっている。

	自動車整備科			電気システム 科	総計
	1年	2年	計		
1 高い	5.0%	18.2%	11.9%	0.0%	10.6%
2 やや高い	35.0%	22.7%	28.6%	60.0%	31.9%
3 ちょうどよい	45.0%	59.1%	52.4%	40.0%	51.1%
4 やや低い	15.0%	0.0%	7.1%	0.0%	6.4%
5 低い	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
6 無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

### エ 峡南技専の授業・実習内容

・「普通」が40.4%、「満足」が27.7%、「まあまあ満足」が25.5%となっており、授業内容に不満を持っている生徒は、約6%と少数となっている。

	自動車整備科			電気システム 科	総計
	1年	2年	計		
1 満足している	15.0%	40.9%	28.6%	20.0%	27.7%
2 まあまあ満足している	20.0%	27.3%	23.8%	40.0%	25.5%
3 普通	55.0%	27.3%	40.5%	40.0%	40.4%
4 やや不満	10.0%	4.5%	7.1%	0.0%	6.4%
5 不満	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
6 無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

### オ 在学中に取得を目指せる資格数

・「ちょうどよい」が63.8%、「多い」が25.5%、「やや多い」が10.6%となっている。

	自動車整備科			電気システム 科	総計
	1年	2年	計		
1 多い	30.0%	18.2%	23.8%	40.0%	25.5%
2 やや多い	10.0%	9.1%	9.5%	20.0%	10.6%
3 ちょうどよい	60.0%	72.7%	66.7%	40.0%	63.8%
4 やや少ない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
5 少ない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
6 無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

## カ 学校設備・実習機器

・「普通」が34.0%、「やや満足」が29.8%、「満足」が19.1%となっている。学科別に見ると、自動車整備科において、不満を持っている生徒が多い状況となっている。

	自動車整備科			電気システム科	総計
	1年	2年	計		
1 満足	15.0%	18.2%	16.7%	40.0%	19.1%
2 やや満足	20.0%	40.9%	31.0%	20.0%	29.8%
3 普通	45.0%	22.7%	33.3%	40.0%	34.0%
4 やや不満	10.0%	13.6%	11.9%	0.0%	10.6%
5 不満	10.0%	4.5%	7.1%	0.0%	6.4%
6 無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

## キ 経済的負担に関するサポート体制

・「充実」が40.4%、「普通」が38.3%、「やや充実」が17.0%となっており、不十分と感じている学生は少数な状況となっている。

	自動車整備科			電気システム科	総計
	1年	2年	計		
1 充実	35.0%	45.5%	40.5%	40.0%	40.4%
2 やや充実	10.0%	22.7%	16.7%	20.0%	17.0%
3 普通	45.0%	31.8%	38.1%	40.0%	38.3%
4 やや不十分	5.0%	0.0%	2.4%	0.0%	2.1%
5 不十分	5.0%	0.0%	2.4%	0.0%	2.1%
6 無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

### 3 外的環境の状況・変化

#### (1) 生産年齢人口(15～64歳)の動向

- ・ 2045年の山梨県の生産年齢人口は、282,742人となっており、2015年と比較して、6割弱になることが予想され、全国と比較しても、急速に生産年齢人口の減少が予想されている。

	総数	0～14歳	15～64歳	65歳～	総数	0～14歳	15～64歳	65歳～	(参考 全国)
2015年	834,930	102,892	494,727	237,311	100%	100%	100%	100%	100%
2020年	800,729	91,880	456,631	252,218	96%	89%	92%	106%	96%
2025年	763,274	81,917	424,027	257,330	91%	80%	86%	108%	93%
2030年	724,352	74,344	389,009	260,999	87%	72%	79%	110%	89%
2035年	683,945	68,082	351,810	264,053	82%	66%	71%	111%	84%
2040年	641,932	63,436	312,478	266,018	77%	62%	63%	112%	77%
2045年	598,935	58,823	282,742	257,370	72%	57%	57%	108%	72%

国立社会保障・人口問題研究所 『日本の地域別将来推計人口（平成30（2018）年推計）』

#### (2) 生徒数の減少状況

- ・ 高校卒業者は減少傾向にあり、産短大が開校した平成11年度と比較すると、卒業者数は、約2,400人減少している。

卒業年月	高校卒業生数	高卒者増減 (H11基準)	入試年度	公立高校定員	公立高校定員 (H11基準)
H11.3	10,395	100%	H11	8,500	100%
H12.3	10,172	98%	H12	8,340	98%
H13.3	10,219	98%	H13	8,140	96%
H14.3	10,150	98%	H14	7,660	90%
H15.3	10,004	96%	H15	7,890	93%
H16.3	9,714	93%	H16	7,400	87%
H17.3	9,304	90%	H17	7,130	84%
H18.3	9,585	92%	H18	7,140	84%
H19.3	9,026	87%	H19	7,180	84%
H20.3	8,755	84%	H20	7,020	83%
H21.3	8,662	83%	H21	6,980	82%
H22.3	8,822	85%	H22	7,150	84%
H23.3	8,776	84%	H23	6,790	80%
H24.3	8,652	83%	H24	6,730	79%
H25.3	9,026	87%	H25	6,640	78%
H26.3	8,691	84%	H26	6,330	74%
H27.3	8,549	82%	H27	6,380	75%
H28.3	8,595	83%	H28	6,120	72%
H29.3	8,229	79%	H29	6,060	71%
H30.3	8,341	80%	H30	5,830	69%
H31.3	8,010	77%	H31	5,670	67%

#### (3) 高校卒業後の進路等の傾向

- ・ 大学等（大学＋短期大学）の進学率は、概ね55～60%、就職率は概ね14～17%の間で推移している。

卒業年次	卒業生総数	大学等進学者	専修学校 (専門課程) 進学者	専修学校 (一般課程) 等入学者	公共職業能力 開発施設等 入学者	就職者	一次的な仕事 に就いた者	左記以外の 者	不詳等	進学又は入 学者のうち、 就職している 者	大学等進学 率	就職率
H20.3	8,755	5,047	1,462	423	125	1,399	75	222	2	3	57.6%	16.0%
H21.3	8,662	5,160	1,340	419	116	1,331	71	223	2	1	59.6%	15.4%
H22.3	8,822	5,158	1,484	493	145	1,239	93	208	2	3	58.5%	14.0%
H23.3	8,776	5,085	1,504	456	118	1,297	106	210		1	57.9%	14.8%
H24.3	8,652	4,907	1,483	570	122	1,319	84	166	1	1	56.7%	15.2%
H25.3	9,026	5,185	1,525	494	131	1,361	80	249	1	2	57.4%	15.1%
H26.3	8,691	4,942	1,466	512	95	1,444	73	158	1	1	56.9%	16.6%
H27.3	8,549	4,877	1,453	429	121	1,476	53	140		4	57.0%	17.3%
H28.3	8,595	4,844	1,562	428	94	1,468	50	169			56.4%	17.1%
H29.3	8,229	4,685	1,441	471	91	1,372	38	125	6		56.9%	16.7%
H30.3	8,341	4,770	1,353	500	103	1,387	26	202			57.2%	16.6%
H31.3	8,010	4,444	1,365	567	98	1,330	35	170	1		55.5%	16.6%

山梨県教育統計

#### (4) 新規高等学校卒業生の求人・求職・就職の状況

- ・ 新卒高校生への求人倍率は、1倍を超えて推移しており、近年は2倍を超えている状況である。

卒業年次	求人数		卒業予定者		求職者数		就職内定者数		求人倍率		就職内定率	
		前年比		前年比		前年比		前年比	(ポイント)	前年比	(ポイント)	
H11	2,424	-32.6%	10,199	-5.6%	1,477	-15.6%	1,476	-15.6%	1.64	-0.42	99.9%	-0.07
H12	1,958	-19.2%	9,934	-2.6%	1,305	-11.6%	1,304	-11.7%	1.50	-0.14	99.9%	-0.01
H13	2,046	4.5%	10,012	0.8%	1,301	-0.3%	1,269	-2.7%	1.57	0.07	97.5%	-2.38
H14	1,688	-17.5%	10,245	2.3%	1,210	-7.0%	1,161	-8.5%	1.40	-0.18	96.0%	-1.59
H15	1,380	-18.2%	10,092	-1.5%	1,124	-7.1%	1,072	-7.7%	1.23	-0.17	95.4%	-0.58
H16	1,440	4.3%	9,836	-2.5%	1,068	-5.0%	1,013	-5.5%	1.35	0.12	94.9%	-0.52
H17	1,582	9.9%	9,419	-4.2%	1,075	0.7%	1,037	2.4%	1.47	0.12	96.5%	1.61
H18	1,593	0.7%	9,753	3.5%	1,172	9.0%	1,148	10.7%	1.36	-0.11	98.0%	1.49
H19	1,802	13.1%	9,153	-6.2%	1,140	-2.7%	1,118	-2.6%	1.58	0.22	98.1%	0.12
H20	1,766	-2.0%	8,876	-3.0%	1,142	0.2%	1,118	0.0%	1.55	-0.03	97.9%	-0.17
H21	1,581	-10.5%	8,679	-2.2%	1,111	-2.7%	1,050	-6.1%	1.42	-0.12	94.5%	-3.39
H22	1,034	-34.6%	8,955	3.2%	1,027	-7.6%	959	-8.7%	1.01	-0.42	93.4%	-1.13
H23	1,178	13.9%	8,890	-0.7%	1,097	6.8%	1,049	9.4%	1.07	0.07	95.6%	2.25
H24	1,261	7.0%	8,794	-1.1%	1,099	0.2%	1,077	2.7%	1.15	0.07	98.0%	2.37
H25	1,248	-1.0%	9,162	4.2%	1,165	6.0%	1,130	4.9%	1.07	-0.08	97.0%	-1.00
H26	1,484	18.9%	8,836	-3.6%	1,229	5.5%	1,212	7.3%	1.21	0.14	98.6%	1.62
H27	1,782	20.1%	8,704	-1.5%	1,279	4.1%	1,272	5.0%	1.39	0.19	99.5%	0.84
H28	2,082	16.8%	8,743	0.4%	1,283	0.3%	1,268	-0.3%	1.62	0.23	98.8%	-0.62
H29	2,383	14.5%	8,383	-4.1%	1,217	-5.1%	1,212	-4.4%	1.96	0.34	99.6%	0.76
H30	2,671	12.1%	8,505	1.5%	1,267	4.1%	1,257	3.7%	2.11	0.15	99.2%	-0.38
H31	2,810	5.2%	8,167	-4.0%	1,206	-4.8%	1,191	-5.3%	2.33	0.22	98.8%	-0.45
R2	3,059	8.9%	8,069	-1.2%	1,184	-1.8%	1,159	-2.7%	2.58	0.25	97.9%	-0.87

(山梨労働局 資料)

#### (5) 県内大学の状況

- ・ 県内で工学部を有する大学は、山梨大学のみである。

大学名	区分	学部	学科	定員	大学定員
山梨大学	国立大学法人	教育学部	学校教育課程	125	825
			医学部	医学科	
			看護学科	60	
		工学部	機械工学科	55	
			電気電子工学科	55	
			コンピュータ理工学科	55	
			情報メカトロニクス工学科	55	
			土木環境工学科	55	
			応用化学科	55	
			先端材料理工学科	35	
生命環境学部	生命工学科	35			
	地域食物科学科	37			
	環境科学科	30			
	地域社会システム学科	48			
山梨県立大学	公立大学法人	国際政策学部	総合政策学科	40	260
			国際コミュニケーション学科	40	
		人間福祉学部	福祉コミュニティ学科	50	
			人間形成学科	30	
看護学部	看護学科	100			
都留文科大学	公立大学法人	文学部	初等教育学科	180	730
			国文学科	120	
			英文学科	120	
			社会学科 現代社会専攻	90	
			社会学科 環境・コミュニティ創造専攻	60	
			比較文化学科	120	
国際教育学科	40				
山梨学院大学	私立	法学部	法学科	270	860
		経営学部	経営学科	300	
		健康栄養学部	管理栄養学科	40	
		国際リベラルアーツ学部	国際リベラルアーツ学科	50	
		スポーツ科学部	スポーツ科学科	200	
身延山大学	私立	仏教学部	仏教学科	30	30
山梨英和大学	私立	人間文化学部	人間文化学科	155	155
健康科学大学	私立	健康科学部	理学療法学科	80	300
			作業療法学科	80	
			福祉心理学科	60	
		看護学部	看護学科	80	
合 計				3,160	3,160

## (6) 外国人留学生・労働者の状況

### ① 外国人留学生の状況

#### ア 山梨県内の各大学における外国人留学生の状況（H29 在籍者）

- 平成29年5月に県・私学・科学振興課が実施した調査によると、県内大学に在籍している外国人留学生は、合計で569人おり、うち、工学系学部等に在籍する外国人留学生は、128人（22.5%）であった。

#### イ 職業能力開発短期大学校における外国人留学生の状況等

- 平成30年9月、これまでの取扱いを改正し、外国人留学生が職業能力開発短期大学校を卒業した場合も、大学等を卒業した外国人留学生と同様に「技術・人文知識・国際業務」の在留資格を取得できることとなった。

この改正を受け、神奈川県立産業技術短期大学校では、令和2年度から外国人留学生の受入れを開始している。（4学科で計10名 入学）

### ② 外国人労働者の状況

- 令和元年10月末現在の山梨県内の外国人労働者の状況は、外国人労働者を雇用している事業所数は、1,339カ所（前年同期比13.1%増加）、外国人労働者は、8,166人（前年同期比18.2%増加）。
- 産業別では、製造業が最も多く、全体に占める外国人労働者の割合は、36.6%の状況。

令和元年度10月末現在

単位： 所、人、%

	事業所数		構成比	外国人労働者数		構成比	一事業所あたりの外国人労働者数		
		うち派遣・請負事業所 [比率]			うち派遣・請負労働者 [比率]			うち派遣・請負労働者	
全事業所規模計	1,339	122 [9.1]	100.0	8,166	2,465 [30.2]	100.0	6.1	20.2	
事業所労働者数	30人未満	777	60 [7.7]	58.0	3,269	1,298 [39.7]	40.0	4.2	21.6
	30～99人	327	38 [11.6]	24.4	1,930	452 [23.4]	23.6	5.9	11.9
	100人～499人	162	24 [14.8]	12.1	1,807	715 [39.6]	22.1	11.2	29.8
	500人以上	26	— [0.0]	1.9	1,065	— [0.0]	13.0	41.0	—
	不明	47	— [0.0]	3.5	95	— [0.0]	1.2	2.0	—

出典 山梨労働局

	全産業計		うち建設業		うち製造業		うち情報通信業		うち卸売業、小売業		うち宿泊業、飲食サービス業		うち教育、学習支援業		うち医療、福祉		うちサービス業 (他に分類されないもの)	
	人数	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	
総数	8,166	413	5.1	2,992	36.6	6	0.1	763	9.3	658	8.1	282	3.5	205	2.5	2,284	28.0	
①専門的・技術的分野の在留資格	1,035	13	1.3	468	45.2	3	0.3	99	9.6	144	13.9	129	12.5	3	0.3	72	7.0	
うち技術・人文知識・国際業務	794	13	1.6	408	51.4	3	0.4	77	9.7	124	15.6	48	6.0	—	0.0	66	8.3	
②特定活動	123	14	11.4	8	6.5	—	0.0	4	3.3	34	27.6	—	0.0	43	35.0	12	9.8	
③技能実習	1,975	294	14.9	1,169	59.2	—	0.0	163	8.3	24	1.2	—	0.0	51	2.6	78	3.9	
④資格外活動	702	—	0.0	55	7.8	—	0.0	160	22.8	323	46.0	50	7.1	17	2.4	73	10.4	
うち留学	542	—	0.0	14	2.6	—	0.0	134	24.7	302	55.7	46	8.5	13	2.4	17	3.1	
⑤身分基づく在留資格	4,331	92	2.1	1,292	29.8	3	0.1	337	7.8	133	3.1	103	2.4	91	2.1	2,049	47.3	
うち永住者	2,477	52	2.1	831	33.5	3	0.1	236	9.5	93	3.8	62	2.5	76	3.1	953	38.5	
うち日本人の配偶者	741	11	1.5	246	33.2	—	0.0	58	7.8	24	3.2	37	5.0	6	0.8	325	43.9	
うち永住者の配偶者	98	4	4.1	18	18.4	—	0.0	6	6.1	—	0.0	1	1.0	1	1.0	66	67.3	
うち定住者	1,015	25	2.5	197	19.4	—	0.0	37	3.6	16	1.6	3	0.3	8	0.8	705	69.5	
⑥不明	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	

出典 山梨労働局

令和元年10月に実施した外国人雇用に関する企業アンケート調査結果（県・外国人材受入支援課 実施）によると、回答のあった企業のうち、外国人を雇用している企業は、29.5%であり、今後、外国人を雇用する意向がある企業は、20.6%となっている。

項目(外国人雇用状況)	回答数	率
雇用している	297	29.5%
今は雇用していないが、過去に雇用していた(概ね3年以内)	48	4.8%
雇用していない(雇用したことはない)	661	65.6%
未回答	2	0.2%
合計	1,008	100.0%

項目(今後の外国人雇用意向)	回答数	率
検討している	146	20.6%
検討していない	505	71.2%
未回答	58	8.2%
合計	709	100.0%

### (7) 就職氷河期世代への支援状況

・ 1990年代から2000年代の雇用環境が厳しい時期に就職活動を行った、いわゆる就職氷河期世代の方々の活躍の場を広げるため、国は令和元年12月に就職氷河期世代支援に関する行動計画2019を閣議決定し、相談・サポート体制の強化や、就職氷河期世代に限定した求人など、社会全体で就職氷河期世代の方々への支援を行っている。

## (8) 学生・企業ニーズ等の動向

### ① 学生ニーズ動向

ア 高校生からの意見 (R2.9実施 高校2年生アンケート結果から)

a 進学先を考える時に重要と考える項目 (回答は3つまで)

・「専門的知識・技術が習得できる」が、19.9%、「就職率が高い」が15.0%、「一生役に立つ資格が取得できる」が11.3%となっている。

	機械関係	電気関係	電子関係	ソフトウェア・コンピュータ関係	観光・旅行関係	宿泊・飲食関係	自動車整備関係	合計
一生役に立つ資格が取得できる	10.9%	12.4%	12.5%	10.0%	10.7%	11.8%	12.3%	11.3%
給料に有利な資格が取得できる	8.5%	9.7%	7.4%	5.3%	4.7%	5.2%	8.0%	7.1%
指導者が充実している	3.9%	3.2%	3.2%	3.1%	2.3%	3.8%	3.1%	3.3%
施設・設備が充実している	6.9%	6.2%	7.4%	7.1%	9.6%	8.3%	7.4%	7.4%
自宅から通学できる	7.5%	7.1%	9.3%	8.4%	6.4%	8.0%	8.9%	7.9%
自分の適性・関心に合う学科や、様々なサポート制度がある	7.2%	6.2%	10.6%	13.3%	15.2%	11.8%	8.3%	10.1%
就職率が高い	16.5%	17.0%	14.2%	12.3%	16.4%	14.9%	11.7%	15.0%
推薦入学できる・入試科目が少ない	2.3%	3.0%	1.7%	3.1%	4.9%	3.3%	2.9%	2.9%
専門的な知識・技術が習得できる	20.3%	20.7%	21.7%	20.4%	15.0%	16.5%	25.1%	19.9%
大企業に就職できる	6.5%	5.7%	5.3%	4.4%	2.7%	2.1%	6.0%	4.9%
都会(県外)生活が経験できる	2.5%	2.1%	1.1%	3.4%	4.5%	4.0%	1.7%	2.8%
入学金・授業料が安い	6.8%	6.5%	5.5%	9.2%	7.4%	9.9%	4.3%	7.2%
その他	0.1%	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.2%	0.3%	0.1%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

b 受けてみたい(興味がある)教育内容(回答は3つまで)

・「eスポーツ」が28.4%、「観光・旅行」が22.6%、「AI(人工知能)」が21.9%となっている。

受けてみたい教育内容(3つまで回答)	比率
①機械加工・機械設計	13.7%
②医療機器製造	13.0%
③電子回路設計・製作	6.3%
④電子制御技術(マイコン・シーケンス等)	3.5%
⑤ロボット製造	9.8%
⑥ソフトウェア開発	12.6%
⑦WEB・ネットワーク	11.7%
⑧IoT	7.1%
⑨AI(人工知能)	21.9%
⑩ビッグデータの分析活用	2.3%
⑪eスポーツ	28.4%
⑫ドローン技術	6.5%
⑬宿泊・飲食サービス	20.2%
⑭ワイン(サービス)	3.9%
⑮観光・旅行	22.6%
⑯販売・営業	21.8%
⑰外国語	19.8%
⑱自動車整備	5.8%
⑲電気工事の施工・設計	3.9%
⑳電気設備管理	2.7%
㉑その他	4.2%



c. どのような魅力が加わったら、進学先候補となるか（回答は3つまで）

・「有名企業への就職が有利になる」が48.3%、次いで「興味関心のある授業を選択して履修できる」が31.8%、「在学中に資格取得に向けた知識や経験が得られる」29.3%となっている。

どのような魅力が加わったら進学先候補となるか。（3つまで回答）	比率
①有名企業への就職が有利になる	48.3%
②成績優秀者に対する経済的（金銭的）な支援	17.2%
③在学中に資格取得に向けた知識や経験が得られる	29.3%
④部活動やサークル活動の充実	21.6%
⑤興味関心のある授業を選択して履修できる	31.8%
⑥分野の専門家や有名教員による授業の実施	7.2%
⑦大学へ編入学ができる	8.8%
⑧県内大学の授業が履修できる	5.2%
⑨最新の技術（AI等）を習得することができる	12.7%
⑩大学レベルの技術力がつく授業の実施	15.9%
⑪自身の将来設計の参考となるようなオープンキャンパス・体験授業等の充実	11.6%
⑫就職活動に向けたインターンシップ（企業での就業体験）の充実	12.7%
⑬その他	2.5%

イ 産短大生からの意見 (R2.10 実施アンケート結果から 産短大 実施)

α 産短大の授業で強化すべきだと思う内容 (回答は3つまで)

・全体として、「課題発見・解決力」が16.5%、「AI・データ解析の専門知識・技術」が15.5%、「IoTの専門知識・技術」が14.5%との回答が多い状況にある。

	塩山キャンパス					都留キャンパス			総計
	生産技術科	電子技術科	観光ビジネス科	情報技術科	塩山計	生産技術科	電子技術科	都留計	
1 機械工学分野の専門知識	51.5%	3.0%	0.0%	0.0%	10.9%	42.9%	0.0%	25.7%	13.5%
2 機械製図の知識	39.4%	9.1%	0.0%	0.0%	9.7%	19.0%	0.0%	11.4%	10.0%
3 工作機械加工スキル	21.2%	3.0%	0.0%	0.0%	4.8%	47.6%	0.0%	28.6%	9.0%
4 工作機械の操作、プログラミング	9.1%	12.1%	0.0%	1.8%	4.8%	14.3%	0.0%	8.6%	5.5%
5 機械製作実習	12.1%	6.1%	0.0%	0.0%	3.6%	28.6%	0.0%	17.1%	6.0%
6 CAD/CAM/CAEによる設計・加工・解析	21.2%	9.1%	0.0%	0.0%	6.1%	23.8%	0.0%	14.3%	7.5%
7 電子工学の専門知識	0.0%	42.4%	0.0%	0.0%	8.5%	0.0%	28.6%	11.4%	9.0%
8 IoTの専門知識・技術	0.0%	18.2%	0.0%	24.6%	12.1%	4.8%	57.1%	25.7%	14.5%
9 AI・データ解析の専門知識・技術	3.0%	12.1%	0.0%	29.8%	13.3%	4.8%	57.1%	25.7%	15.5%
10 デジタル回路の動作原理	3.0%	21.2%	0.0%	1.8%	5.5%	0.0%	28.6%	11.4%	6.5%
11 C言語プログラミングの専門知識・技術	0.0%	24.2%	0.0%	8.8%	7.9%	4.8%	21.4%	11.4%	8.5%
12 ドローン技術	3.0%	12.1%	0.0%	3.5%	4.2%	0.0%	7.1%	2.9%	4.0%
13 センシング技術	0.0%	0.0%	0.0%	5.3%	1.8%	0.0%	0.0%	0.0%	1.5%
14 旅行業の知識とスキル	0.0%	0.0%	26.2%	0.0%	6.7%	0.0%	0.0%	0.0%	5.5%
15 接客サービスの知識とスキル	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	8.5%	0.0%	0.0%	0.0%	7.0%
16 観光振興・観光産業の知識	0.0%	0.0%	19.0%	0.0%	4.8%	0.0%	0.0%	0.0%	4.0%
17 ワイン県として、ワインサービスの知識	0.0%	0.0%	23.8%	0.0%	6.1%	0.0%	0.0%	0.0%	5.0%
18 データベース操作技術	0.0%	0.0%	2.4%	5.3%	2.4%	0.0%	0.0%	0.0%	2.0%
19 プログラミング技術	3.0%	9.1%	4.8%	15.8%	9.1%	4.8%	0.0%	2.9%	8.0%
20 アプリ・プログラム開発技術	0.0%	0.0%	2.4%	29.8%	10.9%	0.0%	7.1%	2.9%	9.5%
21 技能検定取得につながる実習	15.2%	12.1%	14.3%	12.3%	13.3%	19.0%	14.3%	17.1%	14.0%
22 企画提案・プレゼンテーションスキル	0.0%	3.0%	11.9%	10.5%	7.3%	0.0%	0.0%	0.0%	6.0%
23 課題発見・解決力	3.0%	15.2%	16.7%	31.6%	18.8%	4.8%	7.1%	5.7%	16.5%
24 その他	3.0%	3.0%	7.1%	5.3%	4.8%	4.8%	7.1%	5.7%	5.0%

β 産短大にもっと期待すること (回答は3つまで)

・「部・サークル活動を充実してほしい」が30.5%、「資格取得の支援をしてほしい」が21.5%、「より高度な技術を教えてほしい」が19.0%、となっており、部・サークル活動の充実のほか、スキルアップに繋がる取り組みへの期待が高くなっている。

	塩山キャンパス					都留キャンパス			総計
	生産技術科	電子技術科	観光ビジネス科	情報技術科	塩山計	生産技術科	電子技術科	都留計	
1 より高度な技術を教えて欲しい	18.2%	27.3%	7.1%	15.8%	16.4%	33.3%	28.6%	31.4%	19.0%
2 企業実習に行く機会を増やしてほしい	12.1%	18.2%	26.2%	12.3%	17.0%	4.8%	7.1%	5.7%	15.0%
3 部・サークル活動を充実してほしい	21.2%	24.2%	28.6%	33.3%	27.9%	42.9%	42.9%	42.9%	30.5%
4 施設・設備を綺麗にしてほしい	9.1%	21.2%	28.6%	5.3%	15.2%	4.8%	7.1%	5.7%	13.5%
5 最新の機械・器具を入れてほしい	6.1%	15.2%	4.8%	17.5%	11.5%	19.0%	14.3%	17.1%	12.5%
6 学費を安くしてほしい	6.1%	9.1%	2.4%	5.3%	5.5%	0.0%	7.1%	2.9%	5.0%
7 企業情報を教えて欲しい	15.2%	6.1%	4.8%	8.8%	8.5%	4.8%	28.6%	14.3%	9.5%
8 学問的なことを教えてほしい	3.0%	6.1%	0.0%	3.5%	3.0%	0.0%	7.1%	2.9%	3.0%
9 社会人マナーを教えてほしい	9.1%	6.1%	16.7%	12.3%	11.5%	33.3%	21.4%	28.6%	14.5%
10 資格取得の支援をしてほしい	6.1%	39.4%	31.0%	17.5%	23.0%	9.5%	21.4%	14.3%	21.5%
11 時代に合った科目を設定してほしい	15.2%	15.2%	16.7%	12.3%	14.5%	0.0%	7.1%	2.9%	12.5%
12 持っていない	33.3%	12.1%	9.5%	19.3%	18.2%	23.8%	7.1%	17.1%	18.0%
13 その他	6.1%	0.0%	7.1%	3.5%	4.2%	4.8%	0.0%	2.9%	4.0%

ウ 峡南技専生からの意見 (R2.11 実施アンケート結果から 峡南技専 実施)

a 峡南技専の授業で強化すべきだと思う内容 (回答は3つまで)

- ・自動車整備科では、「ハイブリッド車や電気自動車など先端技術」が50.0%、「钣金塗装」26.2%、「自動車の点検・整備」及び「自動車整備士試験対策」が23.8%となっている。
- ・電気システム科では、「屋内配線工事」、「電気設計図・CAD製図」、「第一種電気工事士試験対策」が40.0%となっている。

	自動車整備科				電子システム科
	1年	2年	計		
1 自動車の基礎的な知識・技術	20.0%	22.7%	21.4%	1 電気工事の基礎的な知識・技術	20.0%
2 電気の基礎	5.0%	4.5%	4.8%	2 電気の基礎	20.0%
3 自動車の点検・整備	25.0%	22.7%	23.8%	3 屋内配線工事	40.0%
4 電子制御装置の構造・整備	5.0%	18.2%	11.9%	4 外線工事	0.0%
5 コンピュータ操作	20.0%	27.3%	23.8%	5 コンピュータ操作	20.0%
6 自動車の検査	5.0%	4.5%	4.8%	6 電気設計図・CAD製図	40.0%
7 钣金塗装	25.0%	27.3%	26.2%	7 自動制御シーケンス回路設計	20.0%
8 金属加工・溶接	10.0%	18.2%	14.3%	8 電気工事施工管理	0.0%
9 富士チャンピオンレース車両等の製作	10.0%	13.6%	11.9%	9 電力設備の保守管理	0.0%
10 お客様対応などフロント業務	20.0%	13.6%	16.7%	10 HEMS (家庭用電力管理システム)	0.0%
11 ハイブリッド車や電気自動車など先端技術	50.0%	50.0%	50.0%	11 太陽光発電関連	0.0%
12 自動車整備士試験対策	35.0%	13.6%	23.8%	12 第一種電気工事士試験対策	40.0%
13 その他資格取得のための訓練	5.0%	0.0%	2.4%	13 その他資格取得のための訓練	0.0%

b 峡南技専にもっと期待すること (回答は3つまで)

- ・「最新の機械・器具を入れてほしい」が51.1%、「より高度な技術を教えて欲しい」が38.3%、「特にない」が19.1%となっている。

	自動車整備科			電気システム科	総計
	1年	2年	計		
1 より高度な技術を教えて欲しい	35.0%	45.5%	40.5%	20.0%	38.3%
2 企業実習に行く機会を増やしてほしい	25.0%	4.5%	14.3%	20.0%	14.9%
3 部・サークル活動を充実してほしい	15.0%	9.1%	11.9%	20.0%	12.8%
4 施設・設備を綺麗にしてほしい	20.0%	9.1%	14.3%	0.0%	12.8%
5 最新の機械・器具を入れてほしい	65.0%	50.0%	57.1%	0.0%	51.1%
6 学費を安くしてほしい	0.0%	4.5%	2.4%	0.0%	2.1%
7 企業情報を教えて欲しい	10.0%	4.5%	7.1%	0.0%	6.4%
8 学問的なことを教えてほしい	10.0%	0.0%	4.8%	0.0%	4.3%
9 社会人マナーを教えてほしい	5.0%	4.5%	4.8%	0.0%	4.3%
10 資格取得の支援をしてほしい	10.0%	9.1%	9.5%	0.0%	8.5%
11 時代にあった科目を設定してほしい	20.0%	4.5%	11.9%	0.0%	10.6%
12 特にない	10.0%	18.2%	14.3%	60.0%	19.1%
13 その他	5.0%	0.0%	2.4%	20.0%	4.3%

## ② 企業ニーズ動向

### ア 令和2年9月 機械電子産業（12社）を訪問した際の主な意見（産業労働部 実施）

#### a 今後の動向

- ・ 電子・半導体関連産業については、5Gなどの時代の変化に併せて、今後も半導体の需要拡大が続く。
- ・ 電気・金属加工関連産業では、海外生産に向かない少量・多品種の高品質な製品製造とともに、加工だけでなく開発から製造まで行える企業力も必要。

#### b AI・IoT関係

- ・ 今後の労働力不足を想定し、AI・IoTの必要性を認識しているものの、県内中小企業への導入はあまり見受けられず、一部、AIを導入している品質検査でも、最終的には人のチェックが必要な状況。
- ・ 全体的には、AI・IoTの基礎知識を有し、AIに対応できる人材が必要。
- ・ 一部の進出企業においては、AIやIoT技術を取り入れた自社製品を開発することができる人材が必要とされている。

#### c 産短大への意見・要望

- ・ 産短大の学生には、即戦力として期待。電子技術科と生産技術科は人材的には良いが、1人1人にレベル差がある。得意分野を持っていると良い。
- ・ 機械系や電気系の人材が欲しい。徹底的に実技を学んでもらいたい。2年間の期間だが、できれば、機械系を軸にしつつも電気系の分野も分かる人材であると良い。（設備・装置製造業）
- ・ 産短大に求めるものは、自動制御やロボット、AI・IoTに長けた人。
- ・ 学校創設以来、多くの産短大卒を雇用しているが、基礎力があり、製造もできるし、場合によっては、設計や開発もできる。しかし、少子化の影響もあるためか、最近では、成績面や応用力、臨機応変な対応力といったマンパワーで、以前と比べ少し物足りない印象を受ける。

### イ 令和2年9月に実施した企業ニーズ調査結果（対象 県内1,700社 産業人材育成課 実施）

#### a 新卒者を採用する際に重視する項目

- ・ 社会人基礎力は、積極性、協調性の順に、技術者基礎力は、新しい知識・技術の吸収力、専門分野に関する基礎学力、課題発見・解決力の順に高い。

社会人基礎力	回答数	率
明るさ	150	25.0%
積極性	296	49.3%
粘り強さ	143	23.8%
協調性	271	45.4%
リーダーシップ	38	6.3%
コミュニケーション力・交渉力	175	29.1%
誠実さ	189	31.4%
ストレスコントロール力	20	3.3%
情報収集能力	18	3.0%
正確性	87	14.5%
専門分野への興味・問題意識	86	14.3%
社会常識・マナー	149	24.8%
無回答	37	6.2%

技術者基礎力	回答数	率
専門分野に関する基礎学力	278	46.3%
プレゼンテーション能力	40	6.7%
文書（報告書）作成能力	50	8.3%
実験・調査の分析力	62	10.3%
新しい知識・技術の吸収力	311	51.7%
課題発見・解決力	250	41.6%
論理的思考	105	17.5%
専門分野以外の理解力・応用力	74	12.3%
計画立案力	86	14.3%
新しい価値を生み出す創造力	121	20.1%
無回答	72	12.0%

## b 今後重要と考えるスキル

- 生産技術科・電子技術科に関連する業種では、「生産情報などのデータを収集・分析し、業務改善を行うスキル」、「勘やコツを含んだ複雑な作業手順や加工条件を標準化するスキル」、「新技術を活用して生産工程や業務プロセスの合理化・最適化を進めるスキル」の順に高い。

	回答数	重要である	やや重要である	どちらとも言えない	あまり重要でない	重要でない	無回答	(再掲) やや重要である以上
生産情報などのデータを収集・分析し、業務改善を行うスキル	451	89	140	70	20	37	95	229
	100%	19.7%	31.0%	15.5%	4.4%	8.2%	21.1%	50.8%
勘やコツを含んだ複雑な作業手順や加工条件を標準化するスキル	451	82	137	85	14	35	98	219
	100%	18.2%	30.4%	18.8%	3.1%	7.8%	21.7%	48.6%
新技術を活用して生産工程や業務プロセスの合理化・最適化を進めるスキル	451	52	138	103	21	48	89	190
	100%	11.5%	30.6%	22.8%	4.7%	10.6%	19.7%	42.1%
自動機やロボットを導入し、自動化・省人化を行うスキル	451	85	105	80	36	48	97	190
	100%	18.8%	23.3%	17.7%	8.0%	10.6%	21.5%	42.1%
社内システム導入・開発・保守・運用管理などのスキル	451	55	130	107	21	44	94	185
	100%	12.2%	28.8%	23.7%	4.7%	9.8%	20.8%	41.0%
IoTデバイスを活用して生産現場を見える化するスキル	451	52	106	100	45	49	99	158
	100%	11.5%	23.5%	22.2%	10.0%	10.9%	22.0%	35.0%
AI等を活用して生産計画、生産管理するスキル	451	44	93	124	32	63	95	137
	100%	9.8%	20.6%	27.5%	7.1%	14.0%	21.1%	30.4%
ロボットにプログラミングするスキル	451	50	82	105	43	80	91	132
	100%	11.1%	18.2%	23.3%	9.5%	17.7%	20.2%	29.3%
画像センサなどを用いた検査において、AIを活用するスキル	451	39	90	99	56	69	98	129
	100%	8.6%	20.0%	22.0%	12.4%	15.3%	21.7%	28.6%
シュミレーションを活用し、設計するスキル	451	39	87	128	38	60	99	126
	100%	8.6%	19.3%	28.4%	8.4%	13.3%	22.0%	27.9%
複数のロボットを管理するスキル	451	48	66	113	54	76	94	114
	100%	10.6%	14.6%	25.1%	12.0%	16.9%	20.8%	25.3%
スマートファクトリーを設計・構築するスキル	451	31	71	145	43	66	95	102
	100%	6.9%	15.7%	32.2%	9.5%	14.6%	21.1%	22.6%
センサデータを活用して状態監視保全を行うスキル	451	28	70	122	61	73	97	98
	100%	6.2%	15.5%	27.1%	13.5%	16.2%	21.5%	21.7%
デジタルツインを活用して、製品製造や予防保全を行うスキル	451	25	70	153	41	68	94	95
	100%	5.5%	15.5%	33.9%	9.1%	15.1%	20.8%	21.1%
ビッグデータを分析・活用するスキル	452	22	66	127	63	78	96	88
	100%	4.9%	14.6%	28.1%	13.9%	17.3%	21.2%	19.5%
ITベンダとの橋渡しとなるスキル	451	22	63	126	66	81	93	85
	100%	4.9%	14.0%	27.9%	14.6%	18.0%	20.6%	18.8%
シュミレーションを活用してサイバー空間と物質空間をつなぐスキル	451	7	27	139	91	87	100	34
	100%	1.6%	6.0%	30.8%	20.2%	19.3%	22.2%	7.5%

## c AI活用分野・導入課題

- AIを導入している企業は、1割程度であり、導入に当たっての課題としては、「AIの導入を先導する組織・人材不足」を約3割の企業が回答。

AI活用分野（複数回答）	回答数	率	AI導入課題（複数回答）	回答数	率
導入していない	314	69.6%	AIの処理結果の質を担保できない	40	8.9%
生産システム設計	8	1.8%	有用な結果が得られるか不明	76	16.9%
在庫管理	11	2.4%	既存システムとの接続性の確保・統合	62	13.7%
動線最適化	4	0.9%	データ収集・整理が不十分	57	12.6%
組立作業の自動化	8	1.8%	AI導入に係るコストが高い	103	22.8%
省エネ分析	3	0.7%	AIの処理プロセスを対外的に説明できない	16	3.5%
画像認識検査	17	3.8%	AIの導入を先導する組織・人材の不足	132	29.0%
部品検査	10	2.2%	AIの導入のために何をすれば良いのか不明	88	19.5%
設備管理	5	1.1%	AIのセキュリティ	30	6.7%
生産ライン管理・保全	13	2.9%	その他	27	6.0%
研究開発・材料設計支援	4	0.9%	無回答	132	29.3%
職人技術の代替・伝承	3	0.7%			
その他	3	0.7%			
無回答	87	19.3%			

d 外国人留学生が産短大を卒業した場合の採用予定

- ・ 31. 8%の企業が産短大を卒業した外国人留学生を採用対象と回答。

	合計	採用対象	採用対象ではない	無回答
生産技術科・電子技術科関連事業所	451	130	255	66
	100%	28.8%	56.5%	14.6%
観光ビジネス科関連事業所	111	46	51	14
	100%	41.4%	45.9%	12.6%
情報技術科関連事業所	39	15	22	2
	100%	38.5%	56.4%	5.1%
合計	601	191	328	82
	100%	31.8%	54.6%	13.6%

e 就職氷河期世代が産短大を卒業した場合の採用予定

- ・ 48. 8%の企業が産短大を卒業した就職氷河期世代を採用対象と回答。

	回答数	採用対象	採用対象ではない	無回答
生産技術科・電子技術科関連事業所	451	203	187	61
	100%	45.0%	41.5%	13.5%
観光ビジネス科関連事業所	111	69	30	12
	100%	62.2%	27.0%	10.8%
情報技術科関連事業所	39	21	16	2
	100%	53.8%	41.0%	5.1%
合計	601	293	233	75
	100%	48.8%	38.8%	12.5%

③ A I人材育成についての国の動向等

政府の「A I戦略2019」（2019年6月策定）では、「人材」を戦略目標のひとつとしており、2025年までに文理を問わず、全ての大学・高専生が、初級レベルの数理・データサイエンス・A Iを習得することを掲げている。

これを受け、山梨大学では、令和2年度から数理・データサイエンス・A I教育を必修化するとともに、文部科学省から「数理・データサイエンス・A I教育の全国展開」の協力校に選定されている。

また、厚生労働省では、令和2年9月、今後の人材開発政策の在り方に関する研究会報告書において、I o TやA Iなど第4次産業革命に対応できる人材を育成するため、国はこれに対応したものづくり分野の教育訓練プログラムの開発を促進し、企業における生産性を向上させる必要があるとしている。

なお、本県では、A I活用を推進するための人材育成などの事項について、NECとの包括連携協定を令和2年2月に締結しており、NECの人材育成システム等の活用も検討していく必要がある。

## 4 主な課題・問題点

### (1) 定員割れの状況

- ・産短大の開校時（平成11年）に比べて、高校卒業者は2割以上減少するなど、少子化による生徒数の減少や、高校生の4年制大学志向、人手不足を背景とした企業の高校生採用の影響等もあり、生産技術科及び電子技術科では、定員割れが続いている。
- ・峡南技専においても、電気システム科では、工業系高校出身者が第二種電気工事士の資格を卒業までに取得することが多いことから、工業系高校出身者の入学者が少なく、定員割れが続いている。
- ・一方、県内企業からは、両校の各学科に多くの求人があることから、両校の定員充足率を向上させる必要がある。

### (2) 学校の認知度の向上

- ・高校生の産短大及び峡南技専の認知度が低い状況にある。
- ・また、都留キャンパスでは、工業系高校との連携を行っているが、工業系高校の生徒は、就職希望の生徒が多いため、産短大へ入学する生徒は少数である。
- ・工業系高校との連携は、「産短大は工業系高校の生徒の進学先」という印象を与える面もあり、普通科の生徒が入学を敬遠する傾向もある。
- ・このため、産短大及び峡南技専について、普通科高校の生徒を中心に、より広く知ってもらう方策を検討し、認知度の向上に取り組む必要がある。

### (3) 訓練内容及び指導体制の充実

- ・コミュニケーションが苦手な学生が増加する傾向にあるが、企業からは、「ヒューマンスキル（対人関係能力）」や「やる気のある人材」を求められており、課題発見・解決力や交渉力などが身につく訓練内容を検討する必要がある。
- ・A I等を活用した労働生産性の向上や業務の効率化は、あらゆる分野で進展することが予想され、この変化に対応できる指導員の育成や外部人材の活用等、訓練内容及び指導体制の充実が必要である。
- ・産短大塩山キャンパスは、開校から20年以上が経過し、施設・設備が老朽化している。技術の進歩が著しい中、最新の知識と技術を習得できる施設・設備が求められるため、実習機器の計画的な整備が必要である。
- ・峡南技専でも、最新の機械・器具の導入ニーズが高く、計画的な整備が必要である。

### (4) 外国人留学生の受入体制整備

- ・外国人労働者の雇用状況については、令和元年10月末現在、約8,200人の外国人労働者が雇用されている。また、現在、雇用していない企業においても、約2割の企業が今後雇用する意向があると回答。
- ・平成30年9月、厚生労働省事務連絡によって、職業能力開発短期大学校から修了証書を交付された外国人留学生についても、大学を卒業した者と同等以上の教



育を受けた者として扱われ、専門的・技術的分野の在留資格を取得することが可能となった。

- ・ このため、産短大において、外国人留学生の受入体制の整備を図る必要がある。

## 5 審議会からの主な意見

### (1) 学科・カリキュラム等

- ・ 在校生・企業がともに、「課題発見・解決力」を重要と考えている。
- ・ 今の企業に必要な学科・授業を検討してもらい、施策の目玉となるようなものを作ってもらいたい。
- ・ I o TやA Iが身近になるような授業を実施してもらいたい。
- ・ 観光ビジネス科において、外国人留学生が入学できる体制を整備できれば、時代を先取りした取り組みとなり、全国的に産短大をアピールできる。
- ・ 峡南技専では、第一種電気工事士などの資格を取得できるカリキュラムにして、生徒を募集するのが良い。

### (2) 学校の認知度向上

- ・ 高校生の認知度を高めることが課題。例えば、都留キャンパスに観光ビジネス科を設置し、県外からの学生を集める手法もある。
- ・ 効果があった取り組みなどの振り返りを実施するなど、継続的な検討が必要。
- ・ 甲府工業高校専攻科が開校したことから、普通高校を中心に生徒を集めるのが良い。
- ・ まずは高校の先生に知ってもらうことが大切。そのため、3年生の担当教員との情報交換会は、毎年、実施したほうが良い。
- ・ 高校生への認知度の向上を図るとともに、高校生のニーズを把握するため、毎年、アンケートを実施する方法もある。
- ・ 中学高校以前にもものづくりへの関心を高めてもらう取り組みが必要。

## 6 見直しの方向性

### (1) 時代の要請に対応した人材育成

本県では、少子化に伴い生産年齢人口が、今後、全国と比較しても急速に減少することが見込まれている。

また、新型コロナウイルス感染症拡大を契機として、社会のデジタル化の必要性がクローズアップされている。

このような状況の中、本県産業の持続的な成長・発展を図るためには、A IやI o Tといったデジタル技術の革新に対応できる人材を育成し、労働生産性を高めるとともに、外国人等を含む多様な人材が県内企業で活躍できる環境を整備する必要がある。

また、持続可能な（低炭素）社会の実現に向けた取り組みがあらゆる産業で、主流



になりつつある。

両校の各学科には、求人が非常に多く、また、公共職業能力開発施設として、多様な学生を受け入れている役割もあることから、現在の学科及び定員を維持し、時代の要請に応えられる人材育成について、次の方向で検討を行う。

## ① カリキュラムの検討

### ア 産短大（AI等技術革新、ワイン関連、社会人基礎力）

#### i 全学科共通

- 日本電気（株）（NEC）との包括連携協定を活用したAI基礎教育  
・全科に共通するAIのリテラシー（基礎）教育や、AIの講演を検討。
- 課題発見・解決力を高める取り組み

#### ii 電子技術科、情報技術科

- ・NECのノウハウを更に専門的にカリキュラムに取り入れる検討。

#### iii 生産技術科

- ・技能検定取得（旋盤、フライス盤等）の強化に取り組むとともに、製造業に普及しつつあるIoTに繋がるコンピュータ制御等の学習を充実。

#### iv 観光ビジネス科

- ワイン・ホスピタリティ・プログラム（仮称）の作成  
・現在「ホスピタリティ・ビジネスコース」で行っているワイン関連講座に、勝沼フィールドワークやワイン関係者との交流を加えて充実させたプログラムを作成し、ワイン県やまなしにおけるホスピタリティあふれた人材を養成。

### イ 峡南技専（環境配慮新技術 HEMS、V2Hの検討）

#### i 自動車整備科・電気システム科共通

- 環境に配慮した新技術に関するカリキュラムの充実  
持続可能な（低炭素）社会の流れに対応するため、
  - ・家庭内の電力使用の最適化を図る技術（HEMS）
  - ・電気自動車のバッテリーを家庭の電力として利用する技術（V2H）等新技術に関するカリキュラムの充実を検討。

#### ii 電気システム科

- ・第一種電気工事士の資格取得強化

## ② 外国人留学生の受入

- ・国際化に資するとともに、産業人材を確保・育成するため、産短大において、外国人留学生の受入体制の整備を図る。
- ・また、峡南技専は職業訓練の普通課程であり、現在の国の在留資格制度では、同校での修了後、「技術・人文知識・国際業務」での在留資格取得が困難であることから、在留資格取得が可能となるよう、国へ引き続き要望する。  
（産短大は専門課程であり、現在の制度でも、在留資格の取得が可能）

### ③ 就職氷河期世代の受入

- ・ 就職氷河期世代の職業訓練・就職を支援するため、産短大及び峡南技専において、入学枠や試験の在り方、入学料、授業料減免等の経済支援策について検討し、受入体制の整備を図る。
- ・ また、現在、産短大の専門課程入学者については、雇用保険の受給ができないことから、国へ雇用保険の受給が可能となるよう、引き続き要望する。  
(峡南技専では、現在の制度でも、雇用保険の受給が可能)

### ④ 指導体制・設備の充実

- ・ カリキュラム検討に併せ、即戦力として企業で活躍していくため、最新の知識・技術が習得できるよう、指導員の育成や外部指導者の活用を図るとともに、計画的な設備整備を図る。

## (2) 学校の認知度の向上

### ① 産短大及び峡南技専共通

- ・ 高校生への認知度向上を図るため、高校3年生担当教員との情報交換会の充実を図るほか、就職活動中の既卒者に対しても、両校の認知度向上が図られるよう、ジョブカフェやまなしやハローワーク等への周知にも取り組む。
- ・ 認知度向上の取り組みに関して、在校生アンケート等の結果などから効果を検証し、有効な事例について、学校間での情報共有を図る。

### ② 産短大

- ・ 現在の工業系高校との連携を維持しつつ、普通高校へのPRを充実させる。
- ・ 小中学生のうちから、ものづくりへの関心を高めてもらうため、出張授業の取り組みについて、対象地域の拡大を検討するとともに、実績をホームページに掲載する。
- ・ 生産技術科では、技能検定の2級取得への取り組みを工業高校との連携カリキュラムで更に強化していく。
- ・ 電子技術科では、AIやIoTなど最新技術についての出張授業等により電子技術科の魅力を発信することで産短大をPRし、進学希望者を増やしていく。

### ③ 峡南技専

- ・ 第一種電気工事士の資格取得が可能であることや、環境に配慮した最新技術を習得できる訓練設備を備えた学校であることをアピールする。